

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
(分担) HIV 検査・相談における疫学的な現状評価にかかる研究 (その2) 報告書

「保健所における HIV 検査・相談の現状評価と課題解決に向けての研究」

研究分担者 土屋 菜歩 (東北大学 東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門)
研究協力者 佐野 貴子 (神奈川県衛生研究所)
研究協力者 今井 光信 (田園調布学園大学)、
研究協力者 須藤 弘二 (株式会社ハナ・メディテック)
研究協力者 加藤 真吾 (株式会社ハナ・メディテック)
研究協力者 貞升 健志 (東京都健康安全研究センター)
研究協力者 川畑 拓也 (地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所)
研究協力者 大木 幸子 (杏林大学)
研究協力者 生島 嗣 (特定非営利活動法人ふれいす東京)
研究協力者 城所 敏英 (東京都新宿東口検査・相談室)、
研究協力者 今村 顕史 (東京都立駒込病院)

研究要旨

本研究は、保健所・検査所における HIV 検査の現状と課題を把握・分析し、より効果的な検査・相談体制構築に向けた対策の立案につなげることを目的としている。本年度は保健所における HIV 検査・相談および梅毒検査の実施状況を把握し課題分析を行うとともに、情報を更新した担当者用検査・相談ガイドラインの改訂を行うことを目的とした。

本年度は、①現行の「保健所等における HIV 即日検査のガイドライン第4版」の改訂、②全国の保健所・検査所を対象とした「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」、「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査の実施、③昨年度作成した梅毒啓発冊子の周知と配布を行った。

アンケートの回収率は保健所で 80.8% (429/531 施設)。特設検査相談機関 (以下特設) では 73.9% (17/23 施設) であった。2023 年 1-12 月の保健所での HIV 検査の総数は 61,866 件で、陽性は 126 件 (0.20%) であった。特設 17 施設の HIV 検査の総数は 21,278 件、陽性は 112 件 (0.53%) であった。HIV 検査を実施している保健所では、半数以上が COVID-19 流行前の体制に戻っていると回答した。課題として、担当人員の確保、対応経験の少ない担当職員のスキルアップや研修機会の確保、無関心層への検査の周知や予防啓発方法、アクセスしやすい検査体制構築の難しさなどがあげられた。郵送検査に保健所が関わる場合の条件として、約 7 割が指針やマニュアルが整備されることが望ましいと回答した。MSM や HIV 陽性当事者などのコミュニティとの連携がないと答えた保健所が 78.9% に上り、今後取り組むべき課題であることが示唆された。

A. 研究目的

AIDS 発症を予防するためには HIV 感染の早期診断が不可欠であり、保健所・検査所はこれまで HIV 陽性者の同定と必要な医療・サービスへの連携に重要な役割を担ってきた。我が

国の新規発生報告件数は減少傾向にあるが、新規発生報告に占める AIDS 患者の割合は依然として 30% 前後で推移している。本研究は、保健所・検査所における HIV 検査・相談の現状と課題を把握・分析し、より効果的な検査・相談

体制構築に向けた対策の立案につなげることを目的としている。

2020年以降の新型コロナウイルス感染症流行下において、保健所での検査実施件数は2020 - 2021年にかけて大きく減少した。本研究の昨年度の調査では、保健所の業務が逼迫し、人員不足で検査・相談の提供体制を縮小せざるを得ない状況であったことが明らかになった。HIV検査の受け控えがあったこともコミュニティや受検者らを対象とした調査で報告されている。

新型コロナ感染症の扱いが2023年5月に5類へ移行し様々な制限が緩和されつつあるが、今後の公衆衛生学的有事にも検査・相談の機会を維持できるような体制構築や検査選択肢の拡大が求められている。本年度は新型コロナ感染症流行後の保健所におけるHIV検査・相談および梅毒検査の実施状況を把握し、課題分析を行うことを目的とした。また、経験の少ないHIV検査・相談に関わる保健所や検査所の担当者に広く活用いただけるよう、情報を更新・追加したHIV検査・相談の改訂版ガイドラインを作成した。

B.研究方法

1. 「保健所等におけるHIV即日検査のガイドライン 第4版」改訂

検査、臨床、検査・相談施設、NPOなど各分野の専門家に研究協力者として協力いただき、現行のガイドラインに情報を更新・追加し改訂を行った。

2. 「保健所・検査所におけるHIV検査・相談体制に関するアンケート」、「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査

全国の保健所およびその支所等531箇所のHIV検査相談施設と東京都新宿東口HIV検査相談施設等23箇所の特設HIV検査相談施設を対象に、2024年1月にHIV検査相談および梅

毒検査に関するアンケート調査を郵送で実施した。アンケートでは2023年1-12月のHIV検査・相談の実施体制を中心に、検査件数、陽性数、検査・相談における課題や工夫についての質問内容とした。質問項目は、過去に実施された保健所・検査所対象のアンケート調査や報告書から収集した情報に基づき、今後の対策に必要なと考えられる質問項目を設定した。特に、近年予防策として話題になることが増えているPrEP（曝露前予防）や、新たな検査選択肢として注目される郵送検査についての質問を盛り込んだ。COVID-19の流行が検査・相談の実施体制に与えた影響を考慮し、COVID-19流行前と比較したHIV検査・相談の実施体制に関する質問項目を設けた。ブロック別の検査数および陽性率についての集計・解析も行った。

3. 梅毒啓発冊子の作成

全国で大幅な陽性者報告数増加が続いている梅毒の予防・啓発を目的として昨年度作成した啓発冊子をウェブサイト（HIV検査・相談マップ <https://www.hivkensa.com/>）で公開するとともに、冊子の増刷を行った。送付依頼のあった全国の保健所および自治体担当者に配布した。

C.研究結果

1. 「保健所等におけるHIV即日検査のガイドライン 第4版」改訂

当初はHIV即日検査の普及を目的として策定された本ガイドラインであるが、HIV検査・相談に関わる現場職員に広く活用いただけるよう、「保健所等におけるHIV検査・相談のガイドライン」として改訂版を作製した。

HIV感染者数の動向や治療法の進歩に関する情報に加え、検査方法や検査キットの情報、梅毒検査についての情報も更新・追加した。記載情報以外にも、予防啓発や支援に役立つウェブサイトも掲載した。今回作成した改訂版ガイド

ラインは全国の保健所・検査所および自治体に配布予定である。

2. 「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」、「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査

今回のアンケート調査では、全国の保健所等の 531 施設中 429 施設から回答を得た（回収率 80.8%）。特設検査相談機関（以下特設）については、対象とした 23 施設中 17 施設（73.9%）から回答を得た。

1) 「保健所・検査所における HIV 検査・相談体制に関するアンケート」調査

① HIV 相談・検査の実施率と実施体制

回答のあった保健所等 429 施設のうち 426 施設（99.9%）が HIV 検査を実施していた。HIV 検査の実施体制（426 施設が回答）については、通常検査のみが 126 施設（29.6%）、即日検査のみが 216 施設（50.7%）、通常検査と即日検査どちらも実施が 84 施設（19.7%）であった。平日夜間、土日に検査を行っている施設はそれぞれ 102 施設（23.9%）、16 施設（3.8%）であった。回答のあった特設 17 施設においては、通常検査のみが 5 施設（29.4%）、即日検査のみが 10 施設（58.8%）、通常検査と即日検査どちらも実施が 2 施設（11.8%）であった。平日夜間、土日に検査を行っている特設はそれぞれ 3 施設（17.6%）、13 施設（76.5%）と土日に検査を行っている特設が大部分であった。

即日検査は保健所、特設とも予約制で実施している施設がほとんどであり、通常検査でも 75%以上の施設が予約制で実施していた。保健所、特設とも、スクリーニング検査から他施設で行うと回答した施設が多かった。即日検査でのスクリーニング検査の方法（300 施設が回答）はダイナスクリーンが 51.7%と最も多く、次いでイムノクロマト法（45.3%）であった。

特設でも 66.7%がダイナスクリーンでスクリーニング検査を行っていた。

② HIV 検査以外の性感染症検査について

回答した 426 施設すべてが HIV 検査以外の性感染症検査を同時に行っていると回答した。同時に行っている検査で最も多かったのは梅毒検査（402 施設、94.4%）であり、B 型肝炎（294 施設、69.0%）、C 型肝炎（289 施設、67.8%）が次いで多かった。クラミジア検査は抗原検査で行っている施設が抗体検査を用いている施設よりも多かった。特設においては 17 施設中 10 施設（58.8%）で他の性感染症検査を行っており、梅毒検査は 10 施設すべてで行っていた。次いで、クラミジア（抗原検査）、B 型肝炎、淋菌の検査を行っている施設がそれぞれ 2 施設ずつであった。

③ HIV 検査数と陽性件数

429 保健所で 2023 年に行った HIV 検査の総数は 61,866 件で、陽性は 126 件（0.20%）であった。陽性者のあった保健所は 78 施設（18.4%）であった。四半期ごとの検査件数、確認検査陽性の件数では 1-3 月が少なく、10-12 月が最も多かった。一方、回答のあった特設 17 施設で 2023 年に行った HIV 検査の総数は 21,278 件で、陽性者のあった特設は 10 施設（58.8%）、陽性は 112（0.53%）であった。四半期ごとの検査件数、陽性数は 4-6 月が最も多く、次いで 10-12 月が多かった。ブロック別の集計において、HIV 検査数は関東甲信越ブロックで 20,683 件と最も多く、陽性件数も関東甲信越ブロックで 46 件と最多であった。陽性率は北海道ブロックで最も高く、0.48%（8/1,676）であった。

④ 年間検査件数別保健所数およびその陽性率

年間検査件数の回答が得られた 425 か所の保健所においては、年間検査数が 50 件未満の施設が 192 施設（45.2%）であった。陽性例の経験率は年間検査数 500 件以上の施設では 80%以上であったのに対し、年間検査数が 50 件未満

の施設では5.7%と低かった。一方、特設17施設においては、検査数は年間検査数1000件以上の施設で行われたものが約8割を占め、年間検査数99件未満の施設では陽性件数は0件であった。

⑤HIV検査結果の受け取り状況と誤通知

検査結果を伝えることができた陽性者数は、保健所で116/126件(95.2%)、特設では108/112件(95.2%)であった。1年間で誤った結果を通知してしまったことがあると回答した保健所はなく、特設で1件あった。

⑥陽性者の発生届および医療機関受診の把握

陽性者のうち、その施設で発生届出を行った割合は、保健所で34.9%、特設で51.8%と特設で高かった。医療機関への紹介状を発行した陽性者の割合は、保健所で88.9%、特設で67.9%であった。医療機関を受診したかどうか把握できている陽性者の割合は保健所で69.1%(56名)、施設で67.5%(56名)であった。

⑦HIV検査結果に関する証明書の発行

保健所において、検査陰性の証明書を発行している施設は32.2%(希望者のみ発行も含む、137/426)であり、そのうち53.3%(73/137)が有料で証明書を発行していた。発行にかかる料金は1,000円~2,000円未満が最も多かった(36%)。記名のある証明書を発行している施設は73.0%(100/137)であった。アンケートに回答が得られた特設17施設において、証明書を発行している施設は2か所のみで、1か所は無料で発行していると回答した。

⑧確認検査陽性者への対応

確認検査陽性の場合、自施設から発生届を提出している保健所は28.6%(122/426)であった。そのうち、届出の提出時にCD4値を記入していない(後日判明後報告、医療機関へ問い合わせさせて記入するものは含まず)保健所は61.5%であった。特設では23.5%(4/17)で発生届を提出しており、いずれも発生届にCD4値は記入していないという回答であった。CD4

値を記入しない理由としては、医療機関で検査をするから、データが不十分だから、などがあがった。

⑨受検者について把握している内容

保健所において、性別については93.4%、感染機会の時期については85.0%、受検動機については84.0%の施設で把握されていた。受検経験、感染リスク、年齢について把握している施設はそれぞれ75.4%、60.1%、68.8%であった。検査についての情報源は65.3%の保健所で把握されていた。居住地域は50.0%、性的指向については42.0%の保健所で把握されていた。特設において性別は100%、感染リスクおよび受検経験ともに94.1%で把握されており、性的指向は76.5%、感染機会の時期、情報源は80%以上で把握されていた。受検者の情報を把握するための質問票は保健所、特設とも検査前に用いられている施設が多かった。

⑩結果説明について

保健所において、スクリーニング検査陽性の場合77.7%、確認検査陽性の場合92.5%で医師が検査結果説明担当者となっていた。陰性の場合には保健師が結果説明を行うという回答が多かった。特設においては、陰性例でも80%以上で医師が検査結果説明担当者となっていた(複数回答のため保健師、看護師が同席している場合もあり得る)。

スクリーニング検査陰性時に検査結果の説明は口頭のみで行うと回答した保健所は351施設中220施設(51.6%)、特設では陰性でも結果の書面を渡すという回答が17施設中14施設(82.4%)から得られた。陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣の経験ありと回答した保健所等施設は426施設中60件(14.1%)、実績はないが可能と回答したのは125件(29.3%)であった。特設では17施設中7件(41.2%)で派遣経験あり、3件(17.6%)で実績はないが派遣可能と言う回答は1件であった。

⑪血液曝露事故が受検動機の受検者について

血液曝露事故が受検動機の受検者は、保健所等で 92/426 件 (21.6%)、特設検査相談施設で 4/17 件 (23.5%) で把握されていた。うちわけは、保健所、特設ともに医療職が最も多く、保健所では警察官、歯科衛生士、鍼灸師、性感染症操作なども見られた。

⑫中学生、高校生の検査希望者への対応

中学生、高校生の検査希望者に対し、保健所では 29.8%、特設では 70.6%の施設が通常通りの対応を行うと回答した。保護者同伴の条件付きで受け入れる、状況に応じて検討する、など施設によって受け入れや対応が異なっていた。

⑬日本語のわからない外国籍の人の受検

日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがあると回答した施設の割合は保健所等で 48.6% (207/426)、特設 64.7% (11/17) であった。

対応言語は英語が最も多かったが、保健所からの回答では 10 か国以上の言語に分かれた

(複数回答あり)。対応方法として、保健所では「通訳システム、アプリ」が最も多く

(44.9%)、次に多かったのが多言語での問診票・説明書であった。特設では多言語での問診票・説明書の対応が最も多かった。通訳依頼と回答した施設は保健所で 15.9%、特設は 18.2% であった。

⑭やむを得ず検査・相談の受け入れを断った経験

2023 年 1-12 月の間に、やむを得ず検査・相談の受け入れを断った経験の有無および断った理由 (複数回答あり) を尋ねた。保健所では 56.3% (240/426) が「ある」と回答し、理由としては「定員数の超過」が 84.2%と大部分を占めた。「居住地在管外」「繰り返し受検のため」を理由として挙げた保健所がそれぞれ 3 施設、6 施設ずつあった。施設では、47.1%

(8/17) が「ある」と回答し、理由は「定員数を超過した」がすべてであった。

⑮PrEP (曝露前予防) について

受検者から PrEP (曝露前予防) についての質問を受けたことがあったかと、質問の内容について尋ねた。保健所の 12.2% (52/426) が「あった」と回答し、質問内容は「どのようなものか」、「入手方法」が多かった。効果や対応している医療機関についての質問もあった。特設では 47.1% (8/17) で PrEP についての質問の経験があり、入手方法についての質問が 66.7%と最も多かった。続いて多かったのは、入手できる場所、副作用や安全性、PEP (曝露後予防) との違いについての質問であった。

⑯HIV 検査・相談担当者の研修・教育の機会について

担当者の研修・教育の機会をどのように確保しているか複数回答で尋ねた。保健所では前任者からの申し送りや資料、エイズ予防財団の研修に参加、既存の資料で自己学習との回答が 60 - 75%程度と多かった。特設でも同様の傾向がみられたが、52.9% (9/17) の施設で自施設での勉強会や研修会を開催していると回答した。一方、保健所で自施設での勉強会や研修会を開催していると回答した施設は 17.4% (74/426) にとどまった。

⑰「保健所等における HIV 即日検査のガイドライン」および、ホームページ「HIV 検査・相談マップ」の利用について

保健所で「保健所等における HIV 即日検査のガイドライン」を見たことがあると回答した施設は 84.3% (359/426)、施設では 82.4% (14/17) であった。ホームページ「HIV 検査・相談マップ」を閲覧したことがあると回答した保健所の割合は 92.7% (395/426) であり、76.3% が役に立つと回答した。特設においては、88.2% (15/17) 施設がホームページ「HIV 検査・相談マップ」を閲覧したことがあり、82.4% (14/17) の施設が役に立つと回答していた。

⑱郵送検査と保健所検査・相談の関わりについて

HIV検査の新たな選択肢としてプレ検査の役割が検討されている郵送検査について尋ねた。

「保健所が郵送検査に関わる場合、どういった条件が整うのがの望ましいと考えるか」という選択式の質問（複数回答可）では、「保健所向けのガイドラインやマニュアルがある」が67.6%と最も多く、次いで「陽性となった場合の再検査の促しができる」、「保健所が検査結果を管理できる」、「郵送検査費用の助成などで安価にできる」とが多かった。条件が整った場合の郵送検査の活用方法については、43.9%

（187/426）の施設が「受検者が希望に応じて通常の採血検査と選択」と回答し、「保健所外のイベント検査」（24.9%）が続いた。一方、約2割の保健所が郵送検査を「活用したいとは思わない」と回答していた。特設でも、整うのが望ましい条件として「ガイドラインやマニュアルがある」が最も多く（35.3%）、「医療職でなくても配布できる」と回答した施設が5施設あった。郵送検査の活用方法としては、施設外のイベント検査と答えた特設が4施設と最も多かった。

⑲コミュニティとの連携について

MSMやHIV陽性当事者などのコミュニティ、NGO、NPOとの連携について尋ねた。保健所の78.9%（336/426）が「特に連携なし」と回答し、イベント検査での協働、研修などでの協力、受検者への支援への協力などで連携していると回答した施設は10%未満にとどまった。一方、特設では「特に連携なし」と回答した施設は23.5%（4/17）であった。

⑳課題

自由記載でHIV検査相談の課題について尋ねた。課題として、予約の無連絡キャンセル、マンパワーの不足、陽性者対応経験の少なさによる不安、スタッフの技術や知識のアップデートの困難さ、検査体制は新型コロナ流行以前に

戻っているが受検者数がなかなか回復せず周知に苦労している、などが挙げられた。特設からは、人材や予算確保の困難さ、PrEPや性被害など多様化している相談内容に対応できるスタッフの確保・育成が挙げられた。

2)「保健所・検査所におけるHIV検査・相談体制に関するアンケート」調査—COVID-19流行後のHIV検査・相談体制について—

①COVID-19流行前と比較した検査・相談の実施体制の変化

アンケートを回収でき、検査・相談を休止していない保健所の56.0%（239/427）が「流行前の体制に戻っている」と回答した。「流行時に縮小したままの体制」と回答した施設は18.5%（79/427）、「新しい体制で行っている」と回答した施設は0.9%（4/427）であった。縮小または新しい体制で検査を実施している施設に変化の内容を尋ねたところ（複数回答可）、最も多かったのは「回数を減らして実施」で53.2%（42/79）であった。次に多かったのは「受け入れ人数を減らして実施」、「予約制に変更した」であった。特設では、COVID-19流行前と比較して「縮小したままの体制」と回答した施設が29.4%（5/17）と最も多く、次いで「流行前の体制に戻っている」が多かった。縮小したままの施設では、回数や受け入れ人数を減らした、予約制に変更した、が内訳として挙げられた。

②HIV検査・相談受検者の属性の変化

「COVID-19流行以前と比較して、HIV検査受検者の属性が変化したと感じる」と回答した保健所は427施設中27施設（6.3%）、特設では17施設中4施設（23.5%）であった。変化の内容として、保健所からの回答は施設によってかなりばらつきがあり、相反する回答も多かった（例：中高年/若年受検者、MSMの増加/減少）。特設でも変化の内容として挙げられたものに一定の傾向は認められなかった。

③来年の HIV 検査・相談の実施予定

来年の HIV 検査・相談の実施予定について、回数、担当人員、受け入れ人数、予約、外部委託の5つの項目で尋ねた。保健所、特設いづれも回数、担当人員、受け入れ人数、予約については今年と変化なく実施予定との回答が最も多かった。外部委託の予定については、78.9% (337/426) の保健所が予定無しと回答した。特設は7施設 (41.2%) が既に外部委託していると回答した。

3) 「保健所・検査所における梅毒検査に関するアンケート」調査

①梅毒検査実施率

アンケートを回収できた429保健所のうち402施設 (93.7%) が梅毒検査を実施していると回答した。特設においては、回収できた17施設中10施設 (58.8%) が梅毒検査を実施していた。

②梅毒検査の実施形態

保健所では257施設 (63.9%) が梅毒検査単独でも受けられると回答した。特設はすべての施設で HIV 検査と一緒にの場合のみ梅毒検査が受けられるとの回答であった。梅毒検査を実施している特設の90% (9/10) において梅毒検査は無料だったが、保健所等においては梅毒検査単独で受ける場合12.5% (32/402) で梅毒検査は有料であり、受検者が負担する金額は500～1000円が71.9%、500円未満が3.1%、1000～2000円が18.8%であった。HIV 検査と一緒に梅毒検査を受ける場合は98.6%の保健所で梅毒検査は無料であった。梅毒検査を実施している保健所402施設のうち、通常検査のみで梅毒検査を実施していると答えた施設は59.5%

(239/402)、即日検査のみで実施が33.8%

(136/402) であった。HIV 通常検査の場で梅毒検査を実施した場合の梅毒検査結果の返却時期は1週間後が最も多く (51.1%)、続いて2週間後 (30.5%) であった。特設では通常検査

のみでの実施が50.0%、即日検査での実施が50.0%であり、通常検査の場で梅毒検査をした場合は1週間後の結果返却が60%、2週間後の返却が20%であった。

③梅毒検査の方法

梅毒検査を即日検査で実施している保健所では、STS法とTP抗体検査を同時に実施している施設が最も多く (85/163施設、52.1%)、次いでTP抗体検査のみ実施が49施設 (30.1%) であった。STS法のみ実施、STS法で陽性だった場合TP抗体検査を追加実施、TP抗体検査で陽性だった場合STS法とTP抗体検査を追加実施していると回答した保健所もあった。通常検査を実施している保健所では、80.5%

(214/266) がSTS法とTP抗体検査を同時に実施していると回答していた。特設では、梅毒検査を通常検査で実施していると回答した5施設のうちSTS法とTP抗体検査を同時に実施している施設が4施設、TP抗体陽性だった場合にSTS法とTP抗体法の両方を追加で実施すると回答した施設が1施設あった。梅毒検査を即日検査で実施している特設 (5施設) では、TP抗体検査のみを実施している施設が4施設、STS法とTP抗体検査を同時に実施している施設が1施設であった。

④梅毒検査陽性者数

2023年1月～12月の梅毒検査陽性者数、陽性者数を尋ねた。回答が得られた保健所402施設の梅毒検査数56,845件のうち、梅毒陽性は2,066件 (3.4%) であった。梅毒検査を実施している特設で件数、陽性数の回答が得られた9施設においては、全体の梅毒検査数18,037件のうち、梅毒陽性は416件 (2.3%) であった。陽性率は保健所の方が高い結果となった。

⑤陽性者への対応

梅毒陽性となった受検者への対応は、保健所等施設、特設検査相談施設どちらも受診勧奨が最も多く、次にパートナーの受検勧奨、医療機関の紹介、紹介状の発行が多かった。梅毒検査

結果の証明書の発行をしていると回答した施設は、保健所で 23.4% (94/402) であり、うち 52.1 %が有料であった。証明書発行にかかる料金は、500 円～1000 円未満が最も多かった。証明書は記名式であると答えた施設が 70.2%を占めた。特設で梅毒検査結果の証明書を発行している施設は 1 施設のみで有料であった。

⑥梅毒検査の受検者への説明・配布用資料

説明・配布用資料があると答えた保健所は 87.1% (350/402) であり、自施設で作成したものや自治体で作成した資料、研究班で作成・配布している冊子「もしかして梅毒?!」を使用していると回答した施設がそれぞれ約 3 割ずつであった。特設では 90% (9/10) の施設が説明・配布用の資料が「ある」と回答し、自施設で作成した資料や自治体で作成した資料を用いている施設が多かった。研究班からの説明・配布資料提供の希望について尋ねた質問では、保健所も特設も「紙ベースで希望」が 75%以上を占めた。

⑦課題

自由記載で梅毒検査の課題を尋ねた。課題として、保健所からは検査結果の解釈が難しい、受診状況の把握が難しい、有症状者が受検した場合の対応、若年者への予防啓発などが挙げられた。特設からは、HIV 治療中で梅毒検査目的（での受検）の方や性産業従事者へのアドバイスなどが挙げられた。

3. 梅毒啓発冊子の増刷と周知、配布

昨年度に作成し全国の保健所、検査所、自治体に配布した冊子を増刷した。年間通して全国各地の保健所、自治体から追加送付の依頼があり、依頼に応じて配布した。HIV 検査・相談マップのウェブサイトに掲載した PDF も自治体等からの問い合わせ時に改めて紹介し、冊子不足時にはウェブサイトからのダウンロード・印刷も提案した。

D. 考察とまとめ

2020 年からの新型コロナウイルス感染症流行下において、全国の保健所ではその対応に大きくリソースや労力を割くこととなり、検査・相談業務を縮小・休止せざるを得ない期間が続いた。受検者側の受検控えもあり、保健所における検査数は 2020 - 2022 年にかけて約半数まで減少した。全国の保健所・検査所では、検査機会を維持すべくさまざまな工夫をしながら検査・相談を実施されてきており、特設は県域をも超えた受検者の受け入れに大きな役割を果たしてきた。

2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類相当の扱いに変更となり、流行前の検査・相談提供体制に戻り始めた状況での保健所（保健所およびその支所等）、特設検査相談施設アンケート調査実施となった。

アンケート調査では現在の HIV 検査・相談の実施体制や課題についての設問の他、COVID-19 流行前と比較した検査・相談体制の変化、受検者特性の変化に関する質問項目を設けた。今後の検査・相談体制構築に向けて、近年受検者や担当者の間でも関心が高まっていると思われる PrEP（曝露前予防）に関する相談、郵送検査に関する担当者側の意見を問う設問も加えた。

能登沖地震の影響もあったものの、保健所 531 施設中 429 施設（回収率 80.8%）、特設 23 施設中 17 施設（回収率 73.9%）と昨年度よりも非常に多くの施設からアンケートの返送を得た。

HIV 検査・相談を実施した保健所 426 施設で 2023 年の 1 年間に行った HIV 検査の総数は 61,866 件、陽性は 126 件（0.20%）であった。陽性者のあった保健所は 78 施設（18.4%）であった。四半期で見ると 10 - 12 月の検査件数が最も多かった。一方、回答のあった 17 の特設で 2023 年に行った HIV 検査の総数は 21,278 件で、陽性は 112 件（0.53%）陽性者の

あった特設は10施設（58.8%）、であった。4半期の動きや通年の検査・相談数の推移、前年までとの比較はエイズ動向委員会からの正式な報告が待たれるところである。

特設でHIV陽性率が高い傾向はこれまでと変わりなく、陽性者、ハイリスク者のアクセスは一定程度維持されていたと考えられる（陰性者、低リスク者の検査アクセスが減った可能性もある）。

ブロック別の集計では、HIV検査数、陽性数とも関東甲信越ブロックで最も多かった。陽性率は北海道ブロックで最も高かった。回収率の影響も考えられるが、北海道ブロックでのHIV感染動向には引き続き注意が必要と考えられる。

保健所と特設のどちらも、日本語を話さない外国籍者への対応については翻訳アプリを利用している施設が多かった。翻訳アプリを使用した対応経験は蓄積されつつあると思われるが、検査・相談の課題に外国籍者への対応を挙げている施設は変わらずある。施設間での経験の共有や研修などでのシミュレーション等も有効であろう。60%前後の保健所、特設が「やむを得ず検査・相談の受け入れを断った経験がある」と回答していた。一番多かった「定員の超過」の他、「繰り返し受検」「管外からの受検」「有症状であること」を理由に検査・相談を断る施設もあったことが明らかになった。受検行動に結びついたハイリスク層の検査機会を奪うことが無いよう、引き続き担当者および関係者への周知が必要である。

HIV検査・相談の場において、PrEPについて相談される機会は増加している。特に特設では約半数の施設でPrEPに関する相談があったと回答していた。PrEPの入手方法や対応可能な医療機関など、よりユーザーに近い具体的な情報のニーズが高まっている。2022年11月には「日本におけるHIV感染予防のための曝露前予防（PrEP）【第1版】利用の手引き」、「日

本におけるHIV感染予防のための曝露前予防（PrEP）—利用者ガイド—」が発行され、オンラインセミナーや講習会なども開催されている。検査・相談担当者のPrEPに関する知識のアップデートは必須であり、研究班からの情報発信や研修機会の提供も重要であると考えられる。PrEPに関する受検者への説明資料や配布物の充実も求められる。

新たな検査選択肢の一つとして注目されている郵送検査に保健所が関わる場合には、ガイドラインやマニュアルなどの公的な指針があることが望ましいとの回答が多かった。郵送検査の位置づけ、保健所の関わり方、実施体制などについては今後現場も含め十分な議論と必要な指針の策定、慎重な体制構築が必要であろう。コミュニティとの連携については、保健所の約8割が特に連携していないと回答していた。検査・相談の課題としてハイリスク層へのアプローチ方法がわからない、陽性者への対応が不安だと述べている保健所が少なくないにも関わらず、コミュニティとの連携が取れていない現状が明らかになった。研究班からの情報発信を続けること、研究班が保健所とコミュニティをつなぐ役割を担うことも重要であろう。

保健所・検査所でのHIV検査・相談の課題として、人員の不足以外に予約のキャンセル、陽性者対応経験が少ないことなどが挙げられた。予約制で検査・相談を実施する施設が増えているため、連絡なしでのキャンセルの影響が大きかったと考えられる。経験の少なさや外部委託による対応力の低下に関する懸念を担当者が感じていることが分かった。今年度改訂したHIV検査・相談ガイドラインの周知や研修会への協力等で、研究班として担当者への支援・協力ができると考える。

2023年1月～12月の梅毒検査陽性率は、保健所で3.6%、特設で2.3%であった。保健所においては梅毒検査目的での受検者も少なくなかったと推察される。2023年も梅毒の流行は続

いており、陽性者数は最多を更新している。症状に気づきにくい感染症である梅毒に対して、保健所の無料匿名検査が陽性者の同定や予防啓発に果たす役割は非常に大きいと言える。研究班で作成、配布した梅毒の啓発冊子も全国各地の保健所から追加送付依頼を受けており、今後も啓発資料の共有及び連携が必要である。梅毒検査希望の受検者が増加することで HIV 検査をニーズとする HIV のハイリスク層が予約を取れない、来場しにくいという状況も報告されている。バランスのとれた検査機会の提供および予防啓発の推進のため、引き続き現場担当者も含めた議論が必要である。

新型コロナ流行により縮小・休止も余儀なくされた検査・相談の実施体制が徐々に流行前の体制に戻りつつある一方、人員不足やアクセスしやすい検査機会の提供については課題が残った。また、検査・相談体制が戻っても受検者数はなかなか回復しないという現場の声も聞かれた。検査検査選択肢の拡大が求められる今、保健所の役割や体制もまた変化することが予想される。保健所等での無料・匿名検査、支援につながる相談の利点は大きい。それらを生かしつつ、今後も起きうる公衆衛生学的有事に際しても検査機会が維持していけるような体制構築に

向けて、保健所検査・相談に求められること、担当者に必要な情報や支援についての情報を集約し、今後への提言ができるよう研究を継続する予定である。

E.結論

なし

F.健康危険情報

該当なし

G.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

謝辞

ご多忙な中、ご協力をいただいた全国の保健所・検査所等関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

R5年度特設アンケート(HIV)

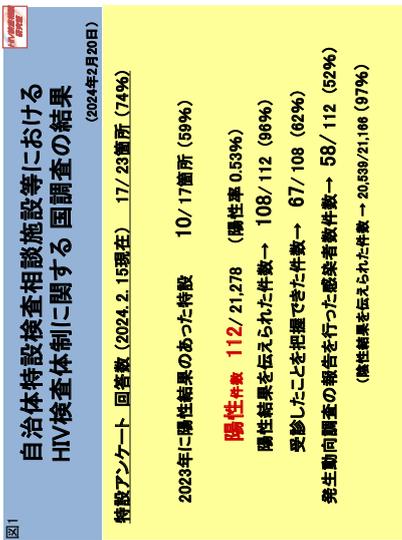


図2 (2023年) 自治体特設検査施設HIV検査 四半期ごとの検査数と陽性数

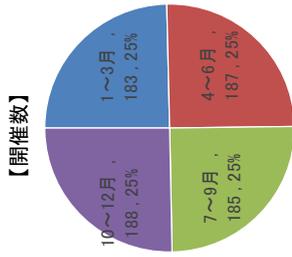


図3 (2023年) 自治体特設検査施設HIV検査 四半期ごとの検査数と陽性数

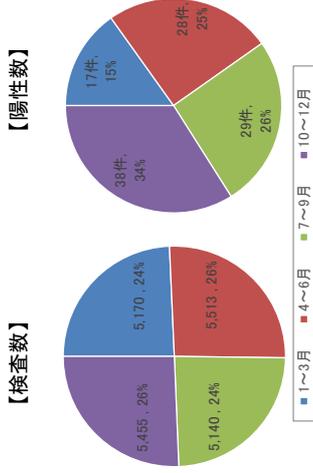


図4 (2023年) 年間検査件数別の自治体特設検査施設と検査数の割合

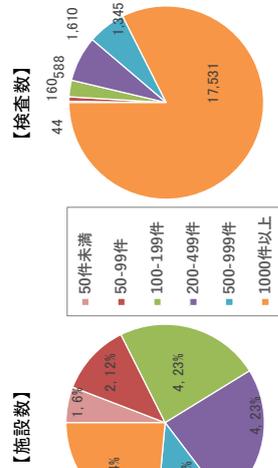


図5 (2023年) 年間検査件数別の自治体特設検査施設数 (n=17)

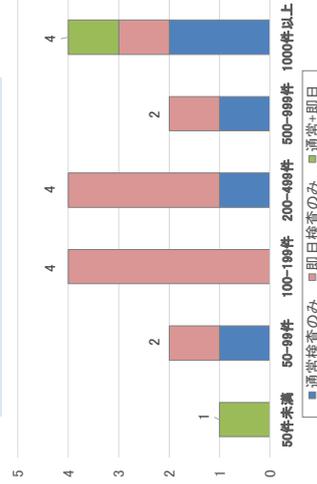
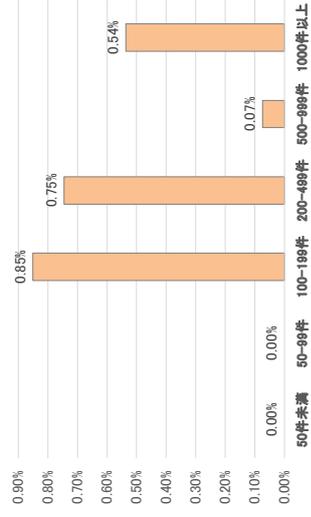
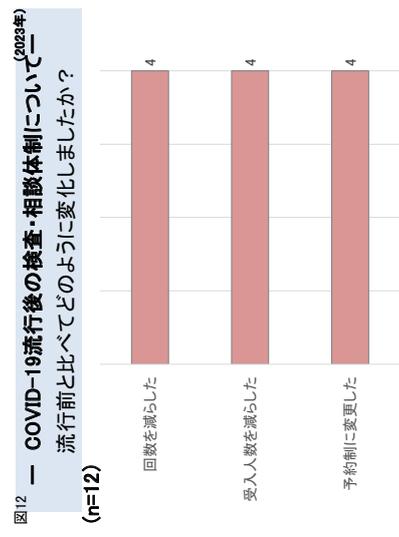
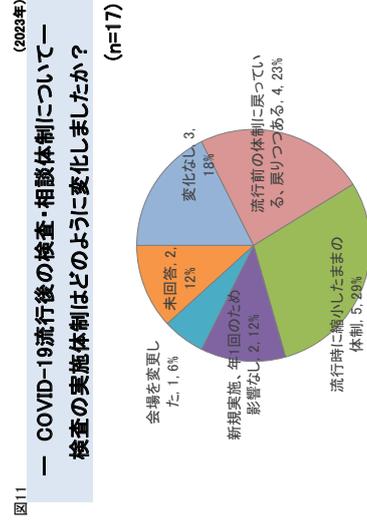
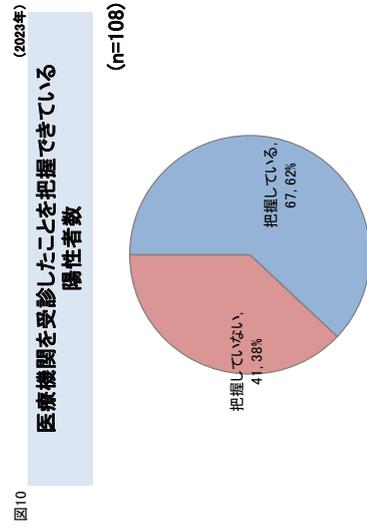
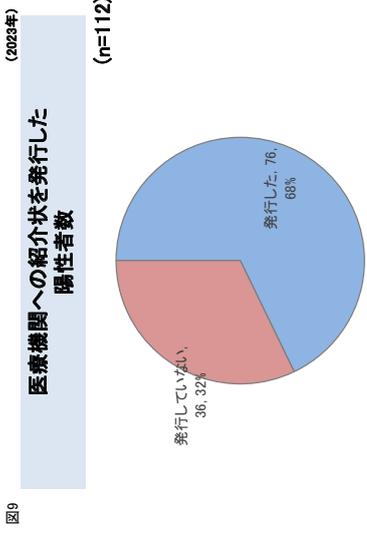
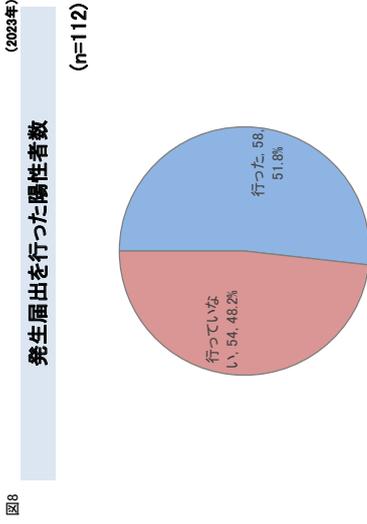
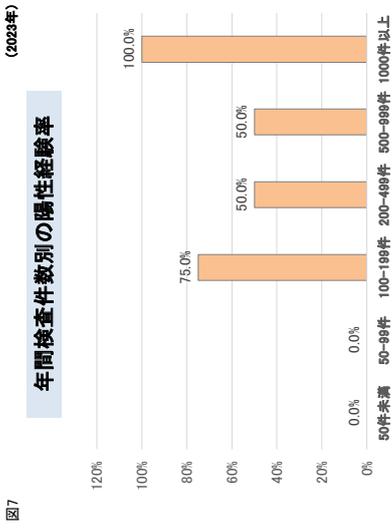


図6 (2023年) 年間検査件数別の陽性率



R5年度特設アンケート(HIV)



R5年度特設アンケート(HIV)

図13 (2023年)
受検者の属性は変化しましたか？ (n=17)

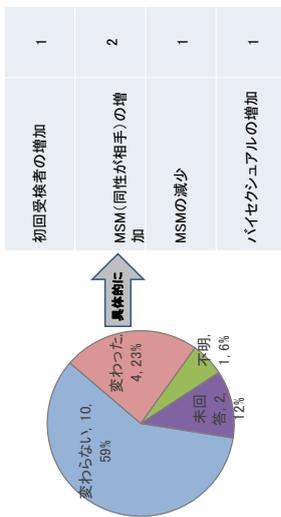


図14 (2023年)
今後の実施予定(回数・担当人員・受入人数) (n=17)

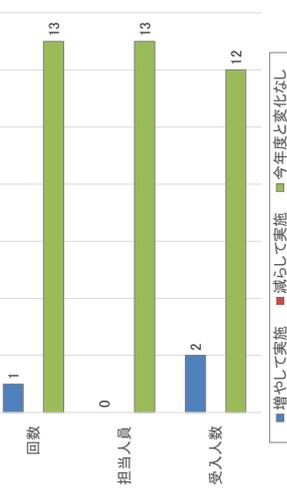


図15 (2023年)
今後の実施予定(予約・外部委託) (n=17)

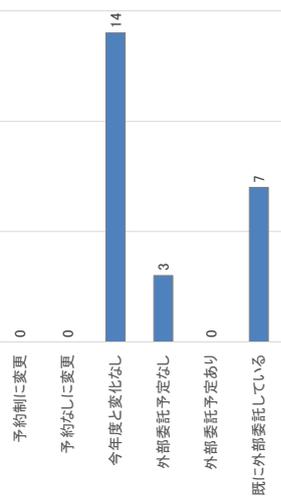


図16 (2023年)
HIV以外の性感染症検査を行っていますか？ (n=17)

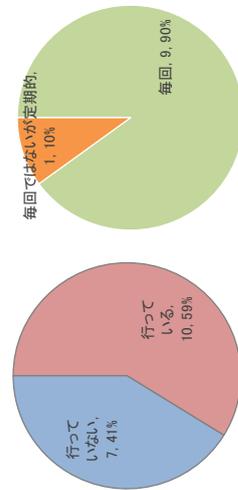


図17 (2023年)
HIVと一緒に実施している性感染症検査項目 (n=17)

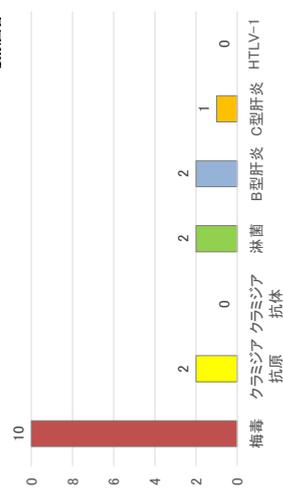
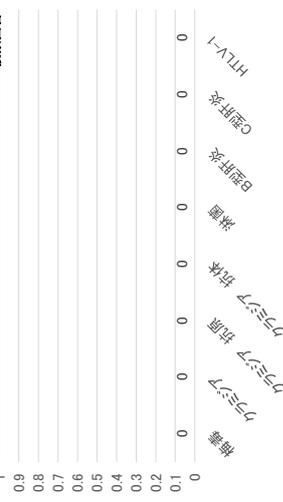


図18 (2023年)
HIVと一緒に実施していない性感染症検査項目 (n=17)



R5年度特設アンケート(HIV)

図19 (2023年) 検査結果について誤通知がありましたか？ (n=17)

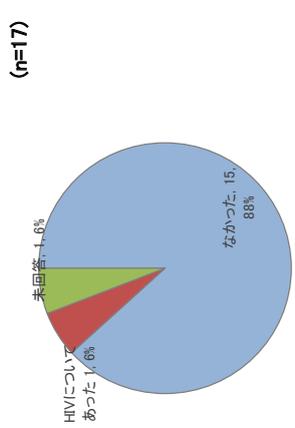


図20 (2023年) HIV検査陰性の証明書を発行していますか？ (n=17)

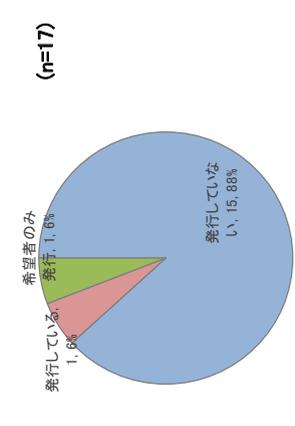


図21 (2023年) 証明書の発行は有料ですか？ (n=2)

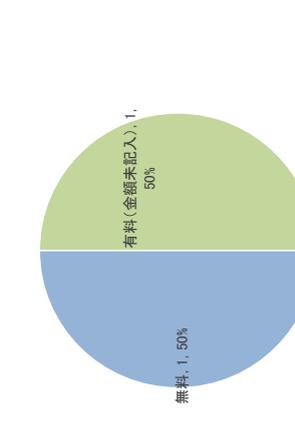


図22 (2023年) 証明書の発行は記名式ですか？ (n=2)

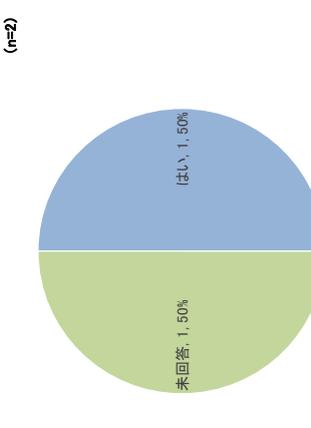


図23 (2023年) 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？ (n=17)

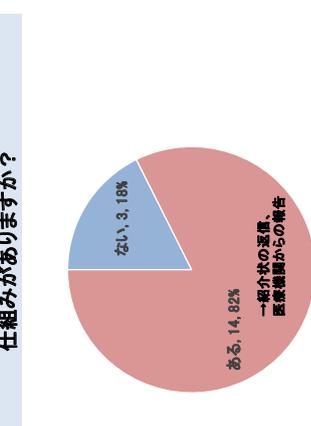
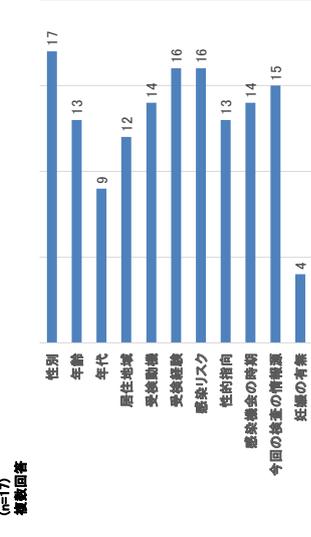


図24 (2023年) 受検者について把握している内容 (n=17) 複数回答



R5年度特設アンケート(HIV)

図25 (2023年) 受検者の情報を把握するための質問票などを用いていますか？ (n=17)

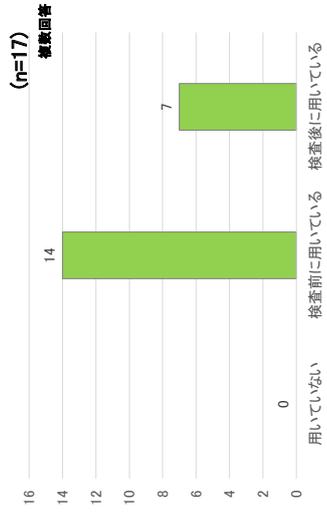


図26 (2023年) 職務中の血液曝露事故が受検動機の受検者はいましたか？ (n=17)

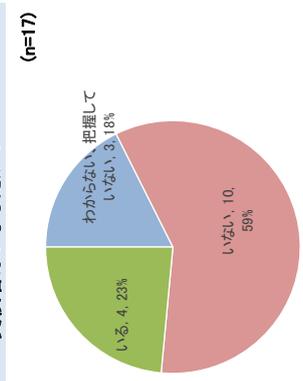


図27 (2023年) 職務中の血液曝露事故が受検動機の受検者はいましたか？(職種) (n=4)



図28 (2023年) 中学生・高校生の検査希望者への対応は？ (n=17)

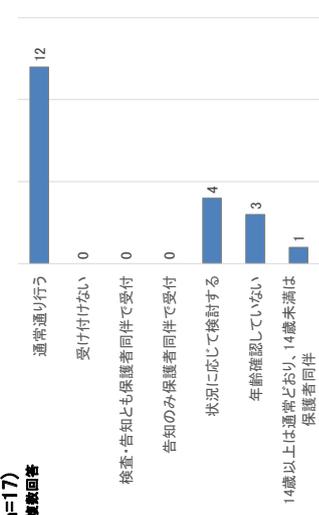


図29 (2023年) 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？ (n=17)

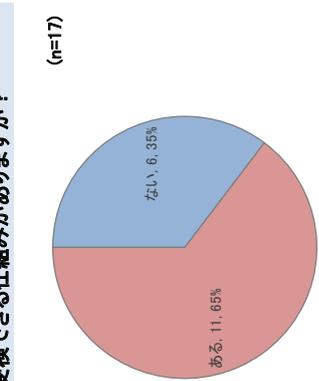
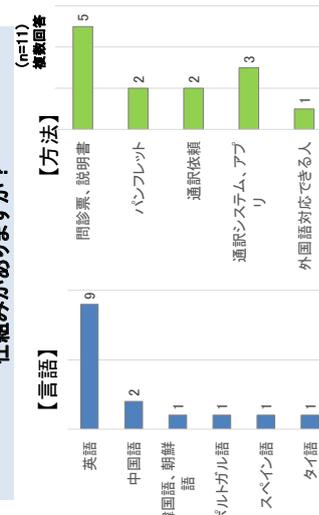


図30 (2023年) 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？ (n=11)



R5年度特設アンケート(HIV)

図31 (2023年)
他所でのスクリーニング検査結果、郵送検査の結果を持参した受検者はいましたか？

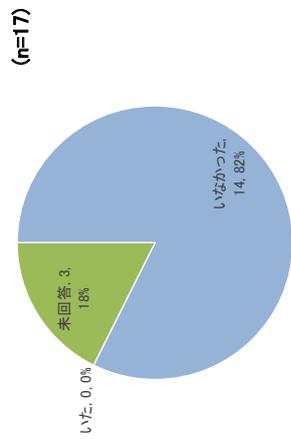


図32 (2023年)
受検者が採血に起因する体調不良等で医療機関受診が必要となった事例がありますか？

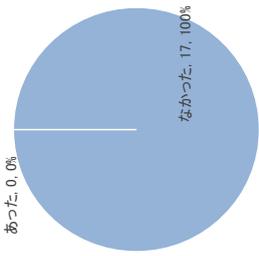


図33 (2023年)
受検者からPrEP(曝露前予防)についての質問はありましたか？

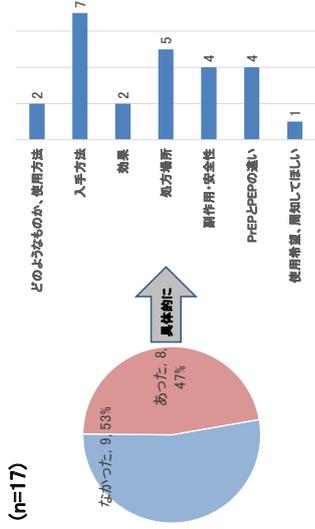


図34 (2023年)
自治体特設検査施設HIV検査 — 即日検査と通常検査 —

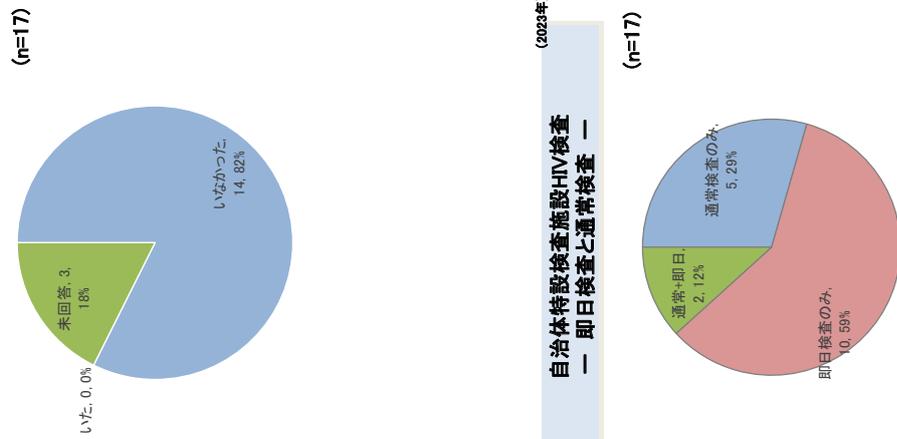


図35 (2023年)
自治体特設検査施設HIV検査 — 平日、夜間、土曜・日曜 —

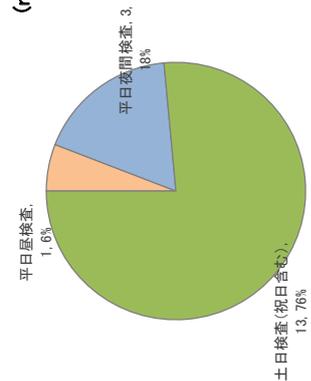
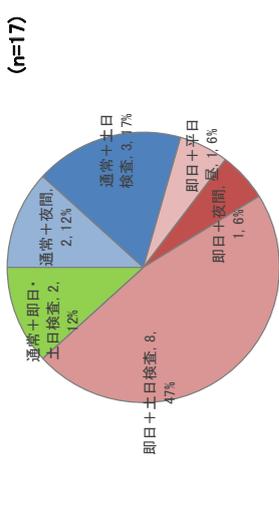
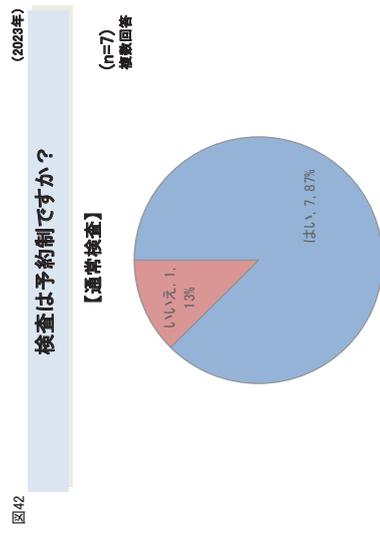
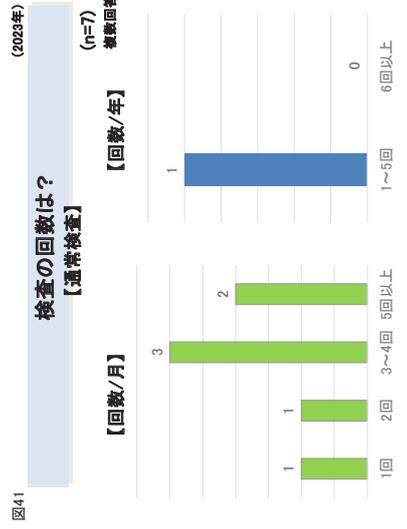
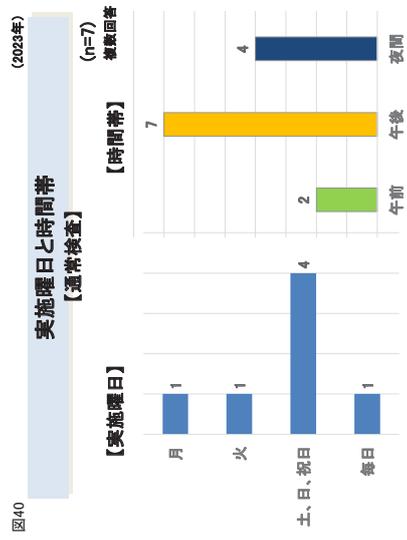
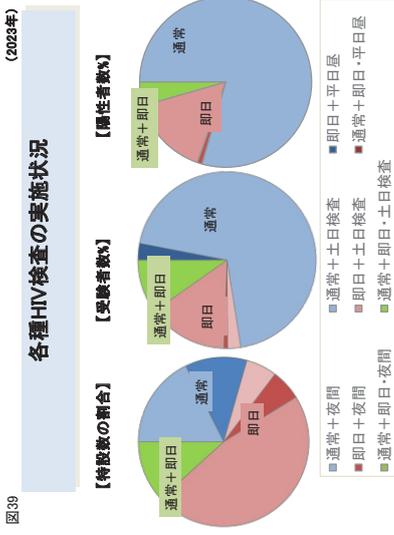
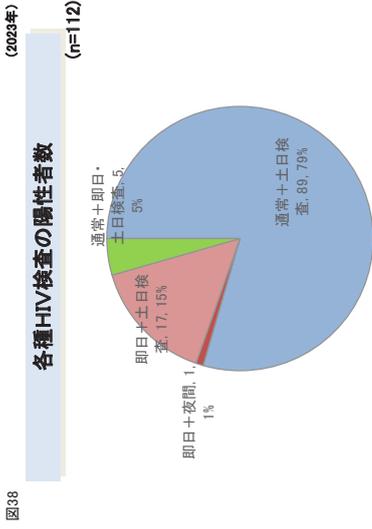
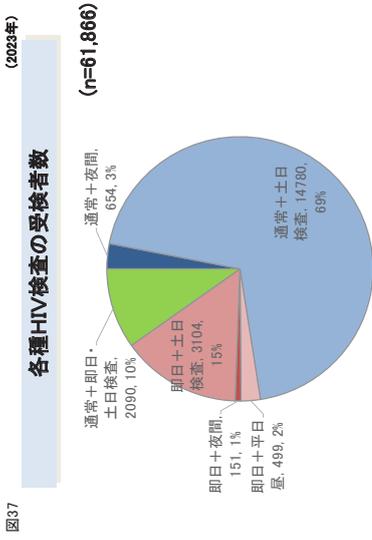


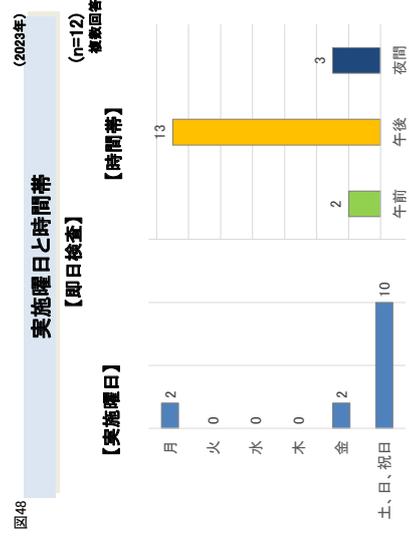
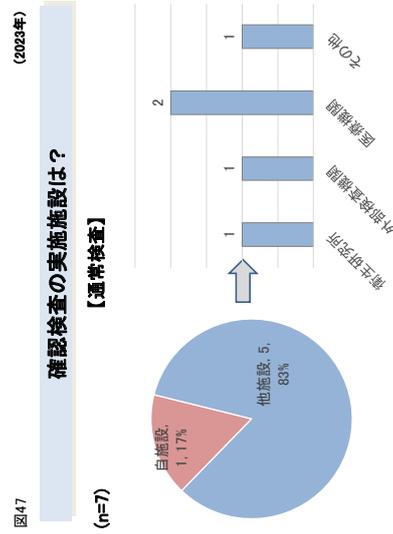
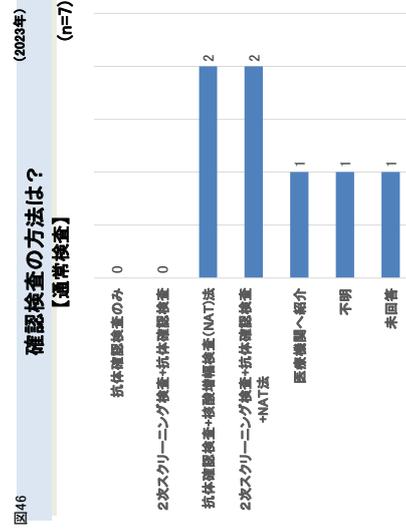
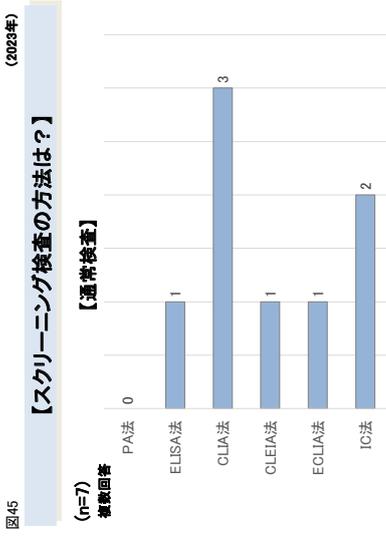
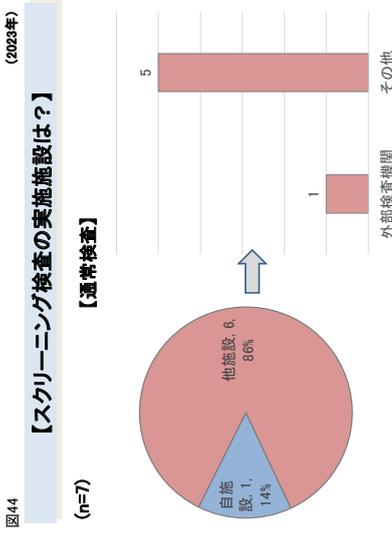
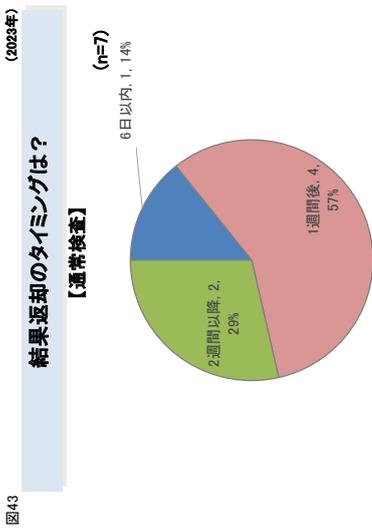
図36 (2023年)
各種HIV検査の実施状況 (特設施設の割合)



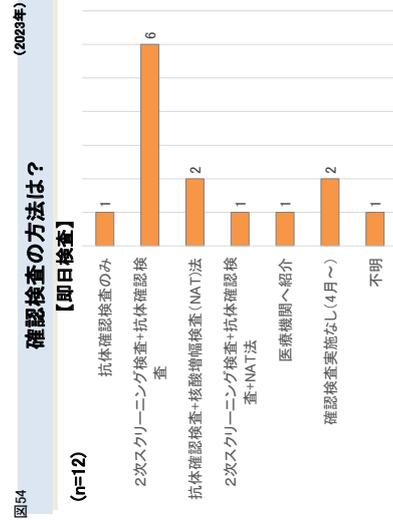
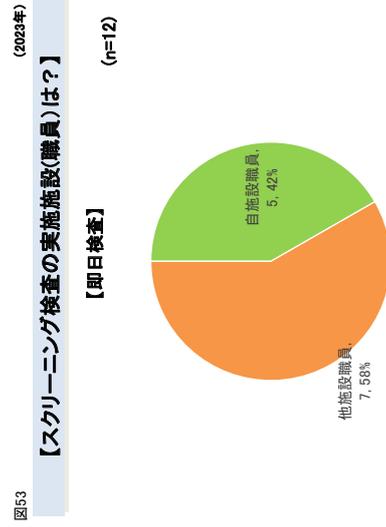
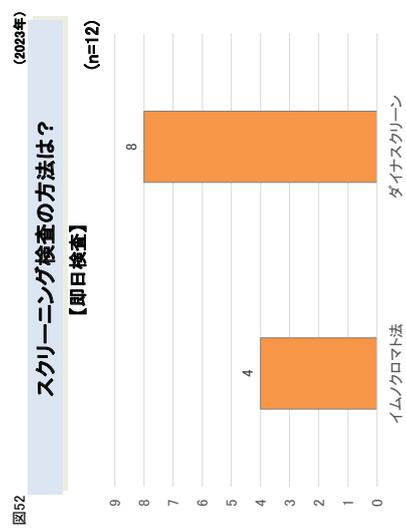
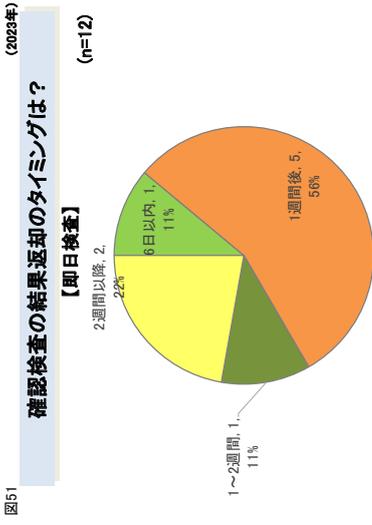
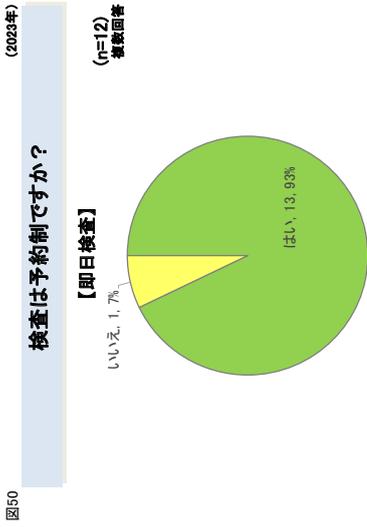
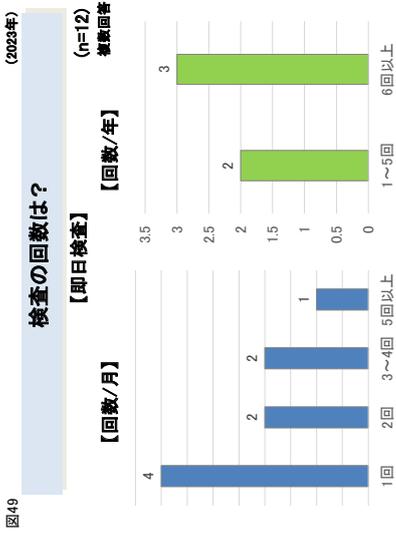
R5年度特設アンケート(HIV)



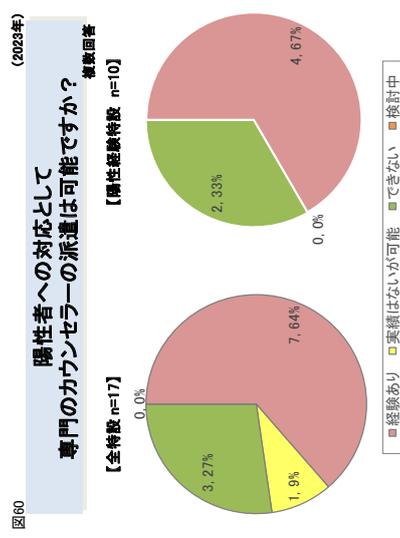
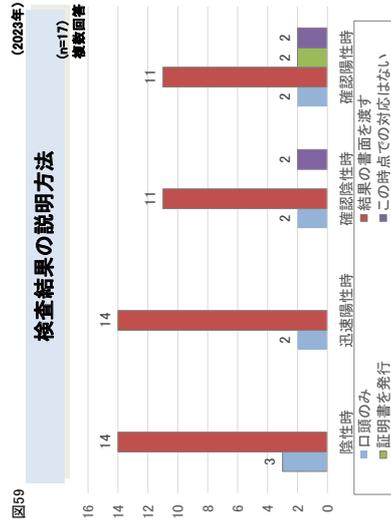
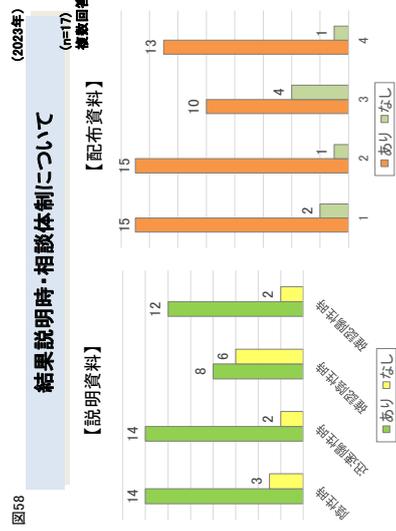
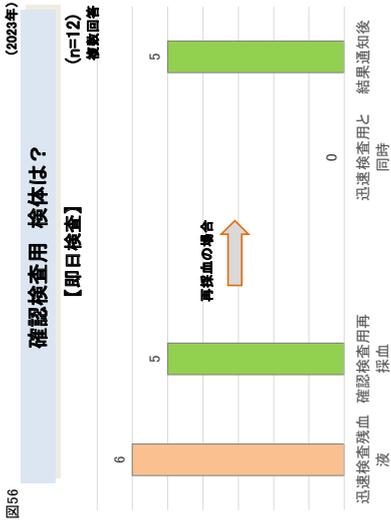
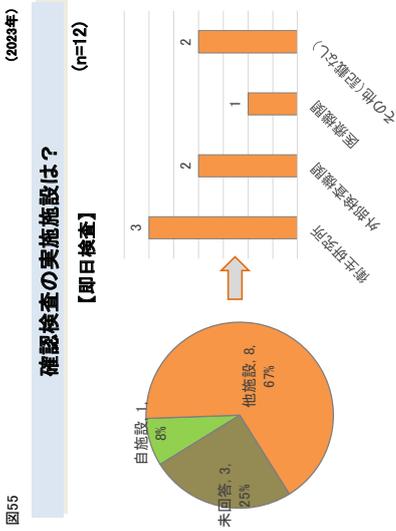
R5年度特設アンケート(HIV)



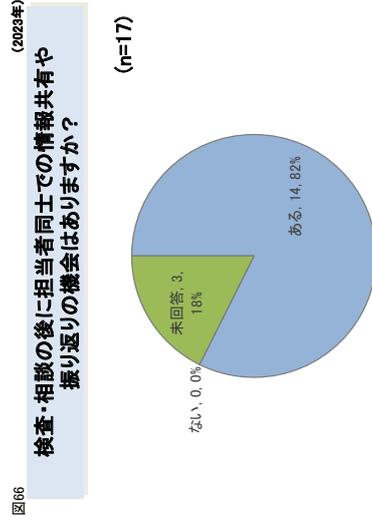
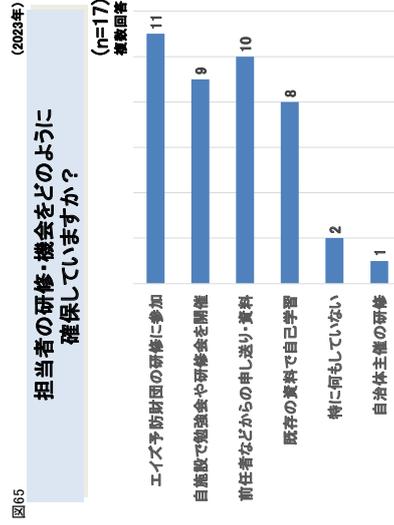
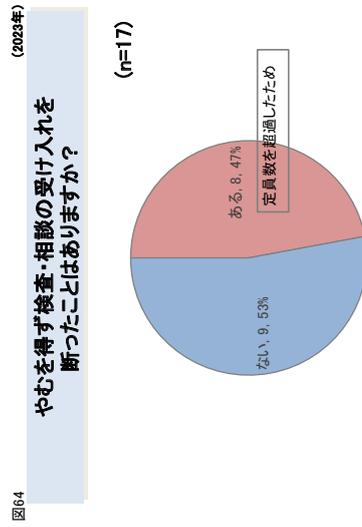
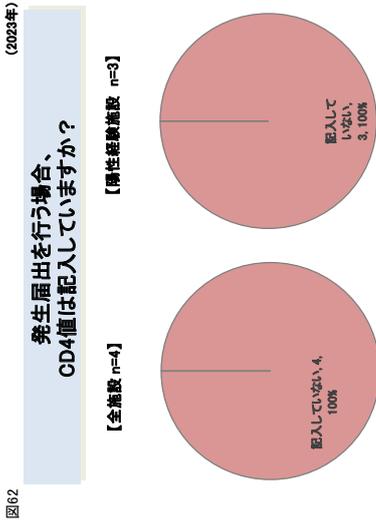
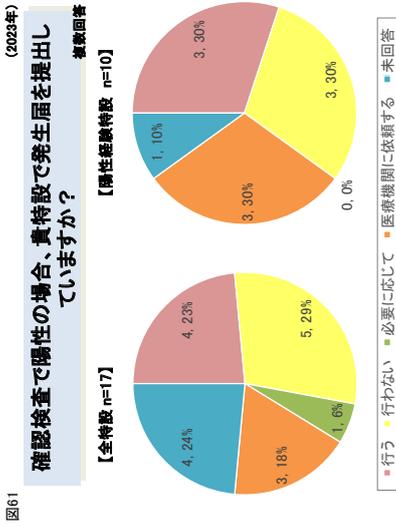
R5年度特設アンケート(HIV)



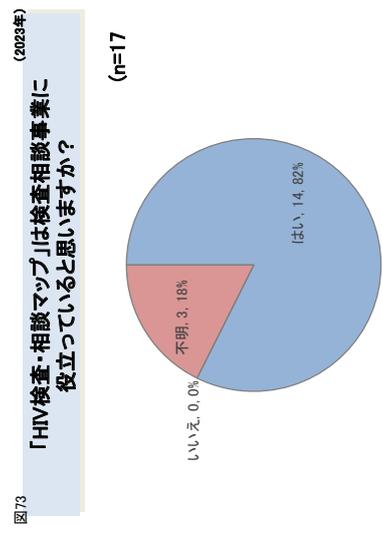
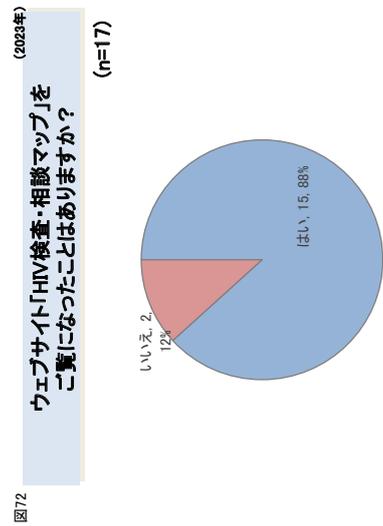
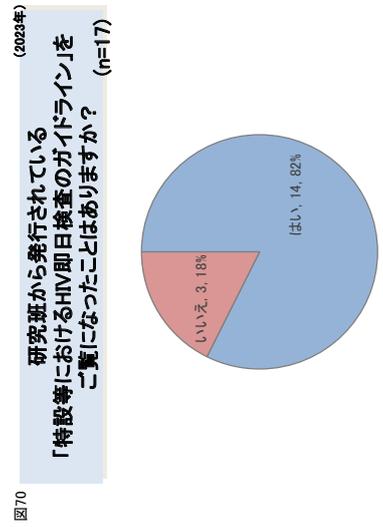
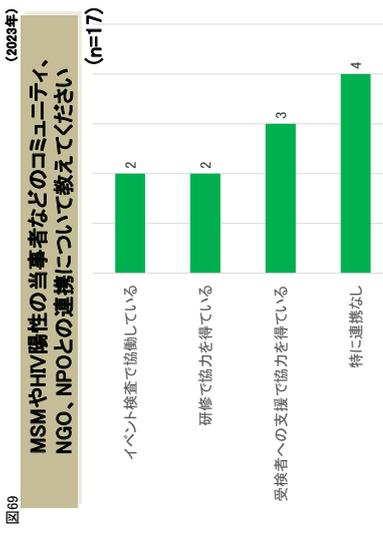
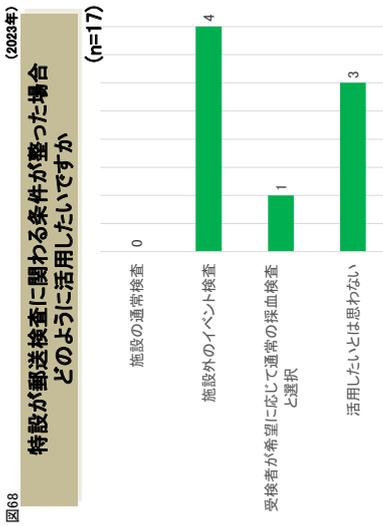
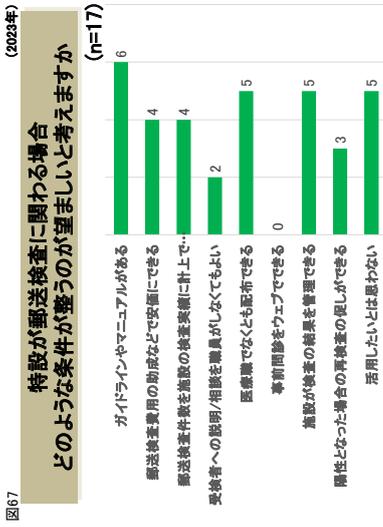
R5年度特設アンケート(HIV)



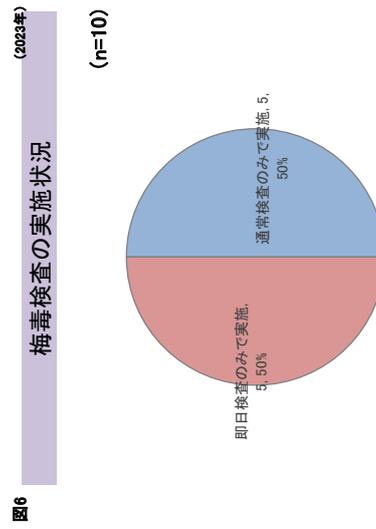
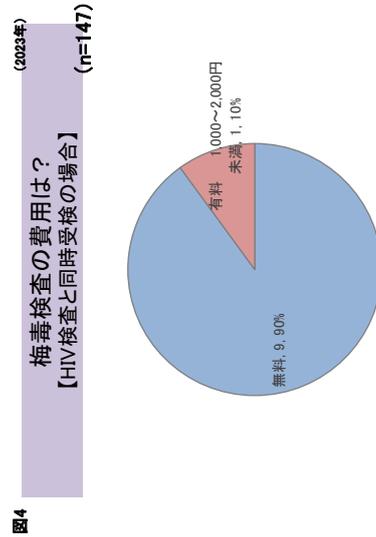
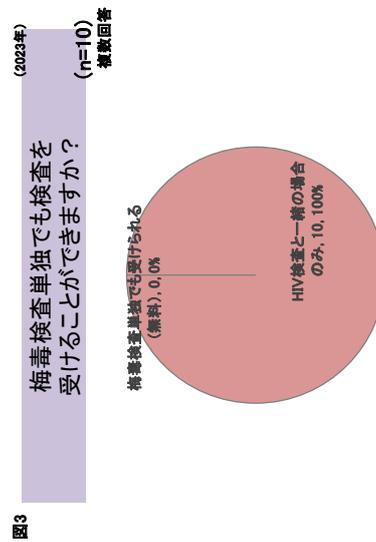
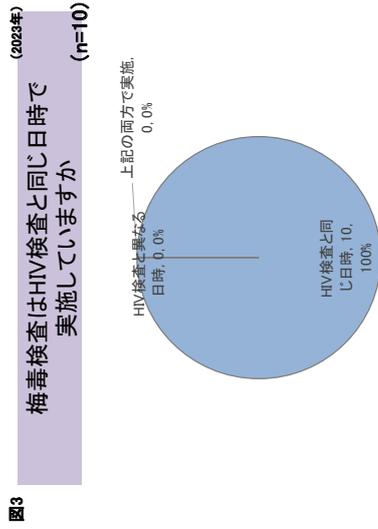
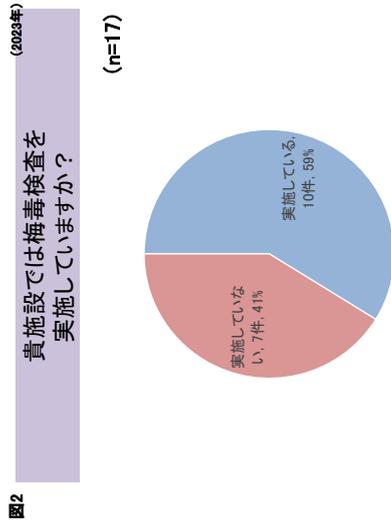
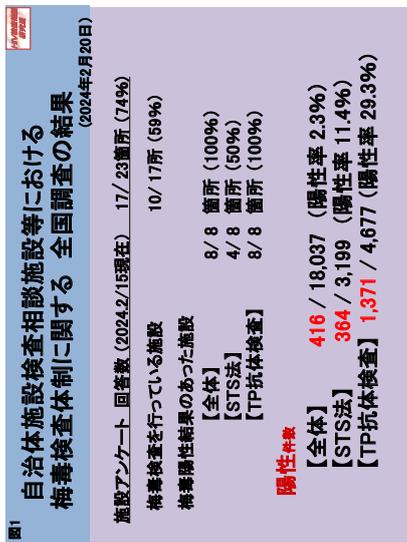
R5年度特設アンケート(HIV)



R5年度特設アンケート(HIV)



R5年度施設アンケート(梅毒)



R5年度施設アンケート(梅毒)

図7 (2024年) 梅毒検査の実施状況について 【通常検査】 (n=5)

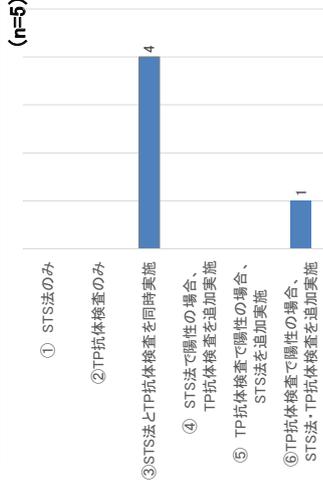


図8 (2024年) 梅毒検査の実施状況について 結果返却のタイミングは？ 【通常検査】 (n=5)

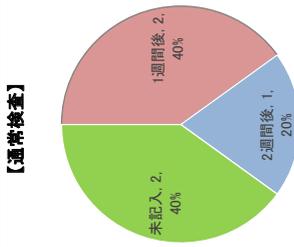


図9 (2024年) 梅毒検査の実施状況について 検査の実施施設は？ 【通常検査】 (n=5)

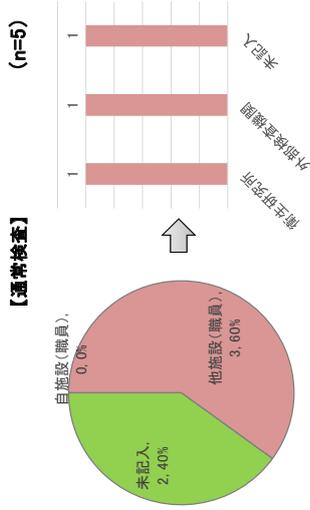


図10 (2024年) 梅毒検査の実施状況について 【即日検査】 (n=5)

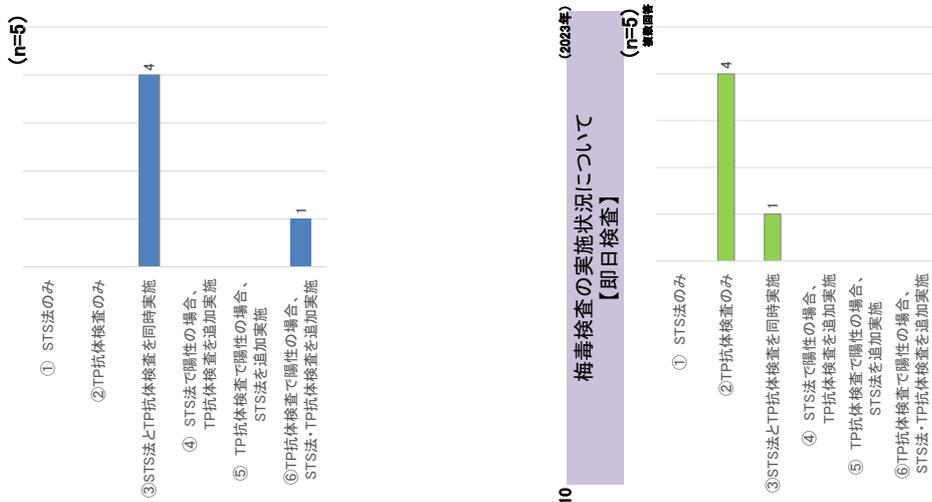


図12 (2024年) 梅毒検査の実施状況について 検査の実施施設は？ 【即日検査】 (n=5)

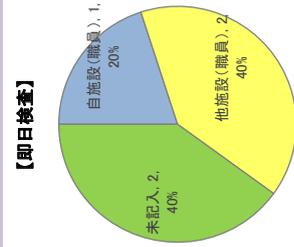


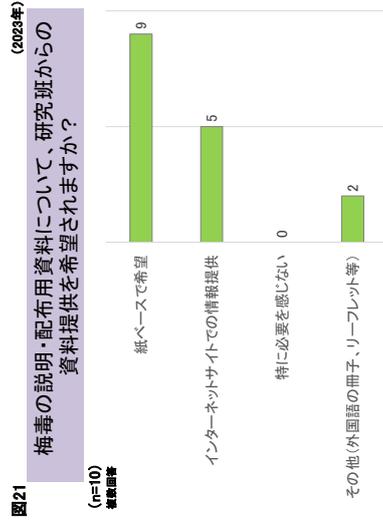
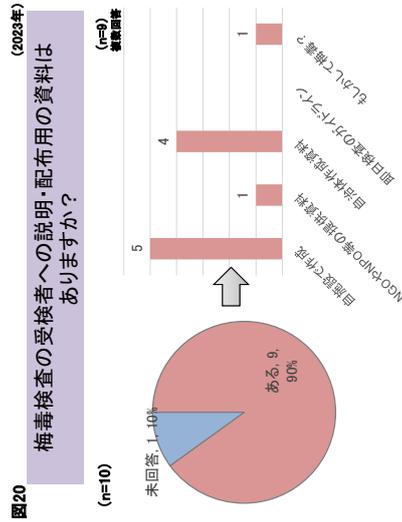
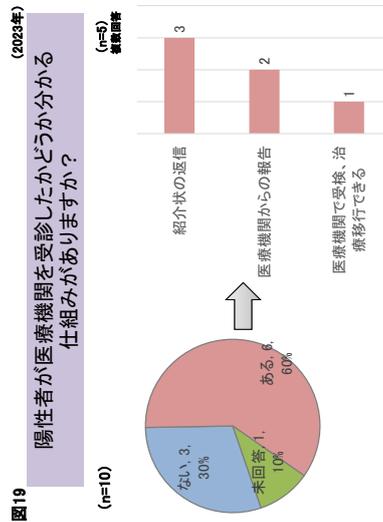
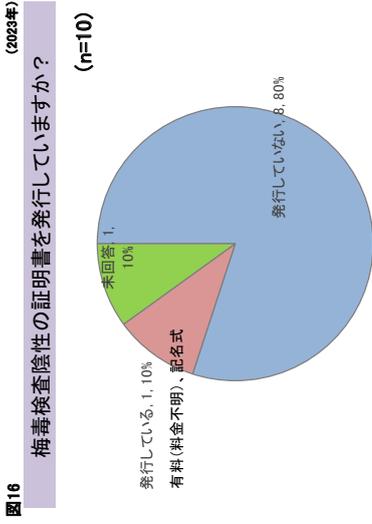
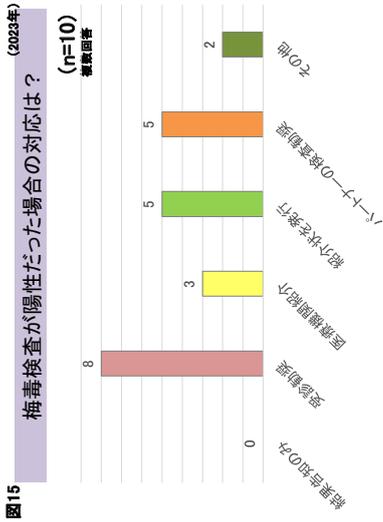
図13 (2024年) 1年間(2023年1~12月)の検査数・陽性数

検査数	陽性数		陽性率
	梅毒陽性数	うちSTS法陽性数	
梅毒検査数	18,037	416	2.3%
うちSTS法検査数	3,199	364	11.4%
うちTP抗体検査検査数	4,677	1,371	29.3%

R5年度施設アンケート(梅毒)

図14 (2024年) 梅毒検査 検査数と陽性数

	R5	R4	R3	R2	R1	H30	前年比
検査実施施設数	10	10	7	9	9	12	100.0%
梅毒検査数	19,037	18,080	14,347	18,629	23,728	24,436	99.8%
うちSTS法検査数	3,199	5,703	4,400	4,504	6,019	5,917	56.1%
うちTP抗体検査数	4,877	8,377	5,047	8,059	23,169	19,484	55.8%
陽性数(全体)	416	449	521	1,176	732	724	92.7%
うちSTS法陽性数	384	363	407	433	133	320	100.3%
TP抗体検査陽性数	1,371	1,380	1,317	1,117	813	973	99.3%
陽性率(全体)	2.3%	2.5%	3.6%	6.3%	3.1%	3.0%	92.9%
うちSTS法陽性率	11.4%	6.4%	9.3%	9.6%	2.2%	5.4%	178.8%
TP抗体検査陽性率	29.3%	16.5%	26.1%	13.9%	3.5%	5.0%	177.9%



R5年度保健所アンケート(HIV)

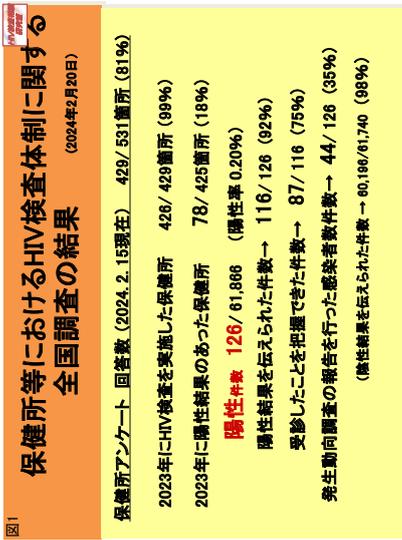


図2 (2023年) 保健所HIV検査 四半期ごとの検査数と陽性数 (n=425)

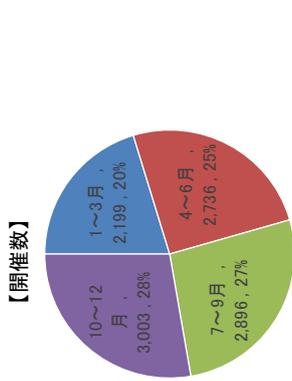


図3 (2023年) 保健所HIV検査 四半期ごとの検査数と陽性数 (n=425)

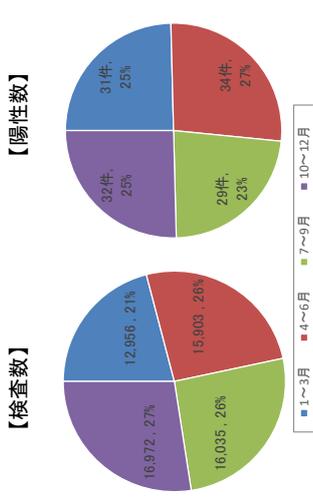


図4 (2023年) 年間検査件数別の保健所数と検査数の割合

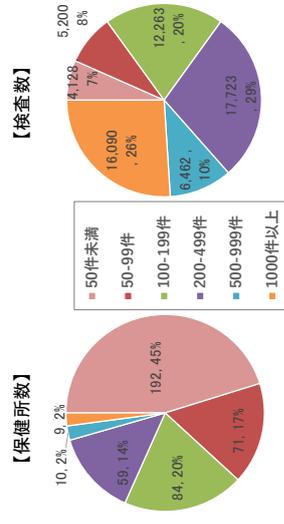


図5 (2023年) 年間検査件数別の保健所数 (n=425)

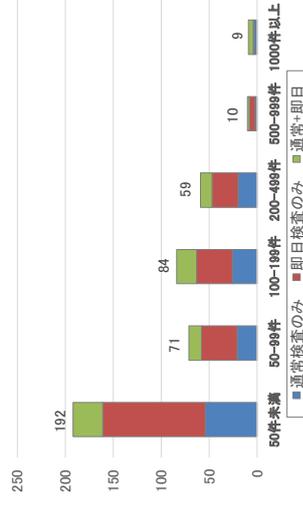
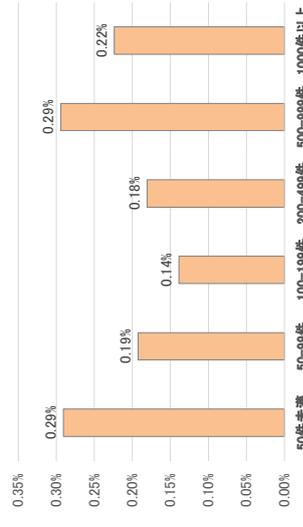


図6 (2023年) 年間検査件数別の陽性率



R5年度保健所アンケート(HIV)

図7 (2023年)
年間検査件数別の陽性経験率

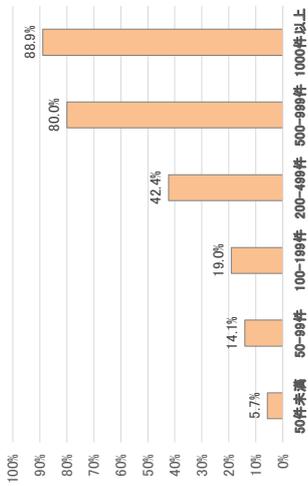


図8 (2023年)
発生届出を行った陽性者数 (n=126)

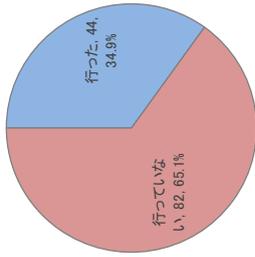


図9 (2023年)
医療機関への紹介状を発行した陽性者数 (n=126)

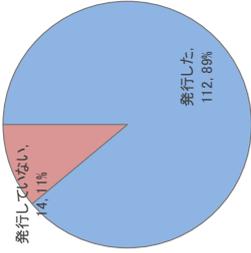


図10 (2023年)
医療機関を受診したことを把握できている陽性者数 (n=116)

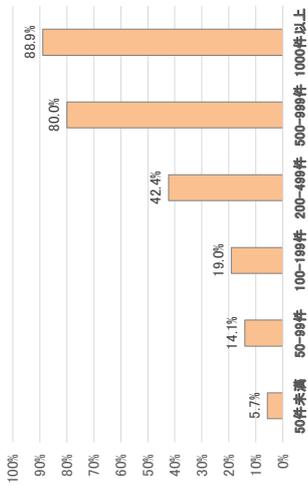


図11 (2023年)
COVID-19流行後の検査・相談体制について—検査の実施体制はどのように変化しましたか? (n=427)

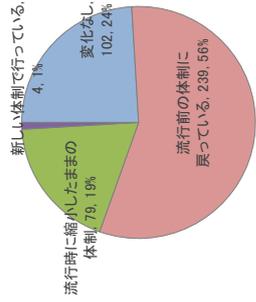


図12 (2023年)
COVID-19流行後の検査・相談体制について—流行前と比べてどのように変化しましたか? (n=79)

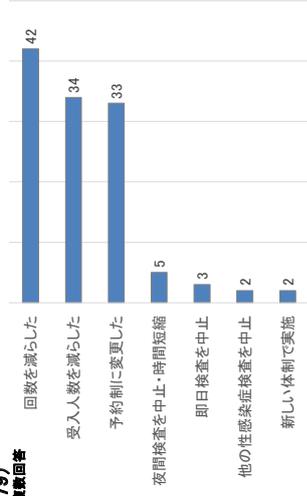


図13 (2023年) COVID-19流行後の検査・相談体制についてー 受検者の属性は変化しましたか？ (n=427)

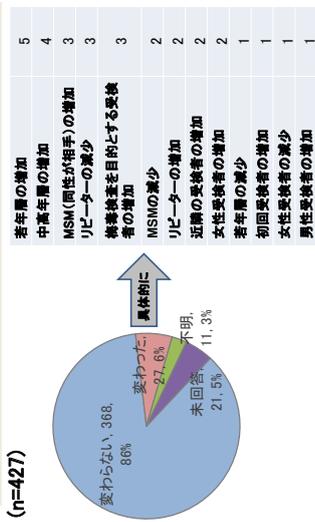


図14 (2023年) COVID-19流行後の検査・相談体制についてー 今後の実施予定(回数・担当人員・受入人数) (n=427)

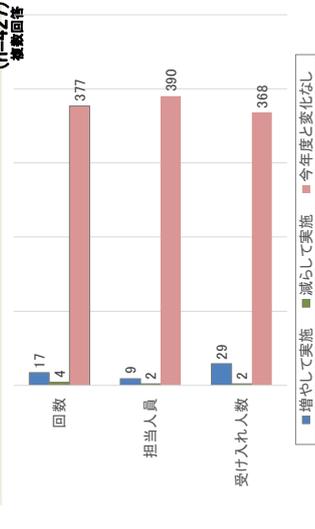


図15 (2023年) COVID-19流行後の検査・相談体制についてー 今後の実施予定(予約・外部委託) (n=427)

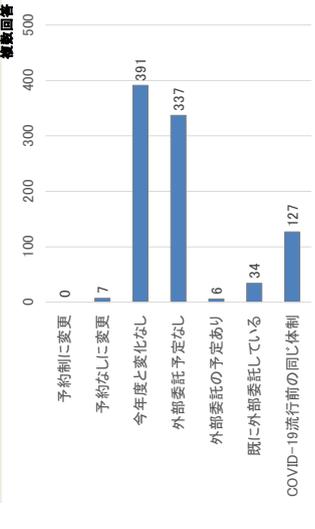


図16 (2023年) HIV以外の性感染症検査を行っていますか？ (n=426)

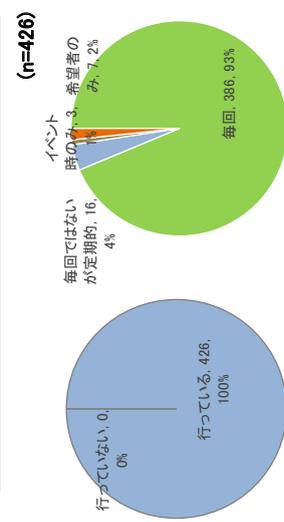
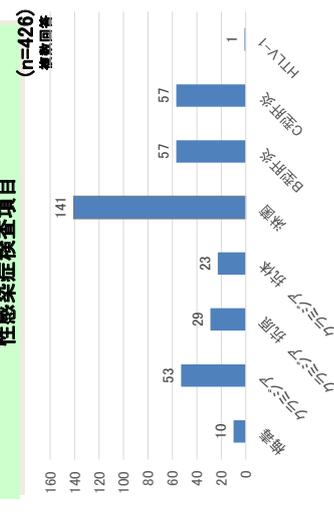


図17 (2023年) HIVと一緒に実施している性感染症検査項目 (n=426)



図18 (2023年) HIVと一緒に実施していない性感染症検査項目 (n=426)



R5年度保健所アンケート(HIV)

図19 (2023年) 検査結果について誤通知がありましたか？ (n=426)

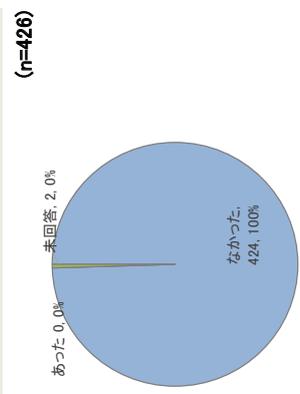


図20 (2023年) HIV検査陰性の証明書を発行していますか？ (n=426)

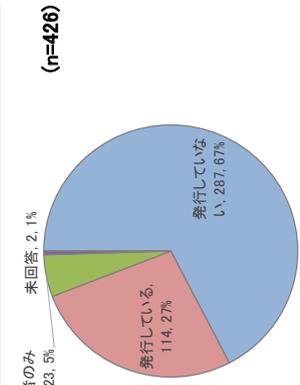


図21 (2023年) 証明書の発行は有料ですか？ (n=137)

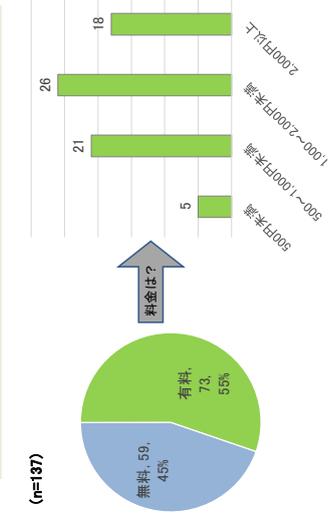


図22 (2023年) 証明書の発行は記名式ですか？ (n=137)

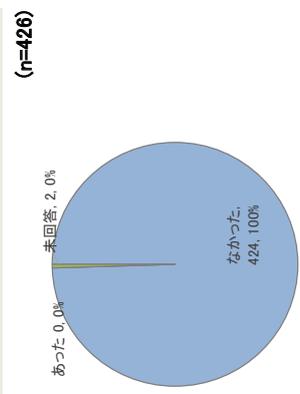


図23 (2023年) 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？ (n=426)

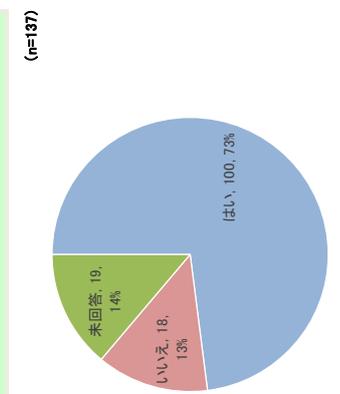
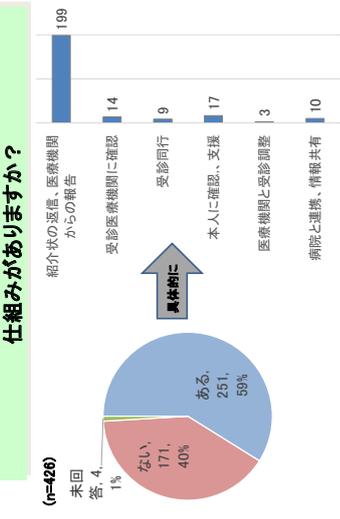


図24 (2023年) 探血はどなたが行っていますか？ (n=426) 複数回答



R5年度保健所アンケート(HIV)

図25 (2023年)
(n=426)
複数回答

受検者について把握している内容

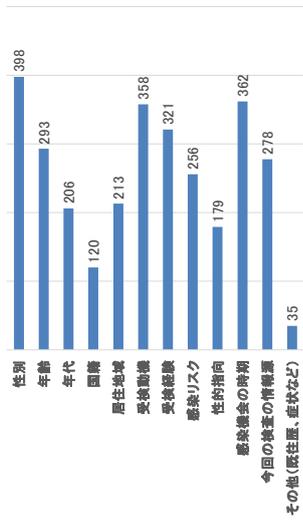


図26 (2023年)
(n=426)

受検者の情報を把握するための質問票などを用いていますか？

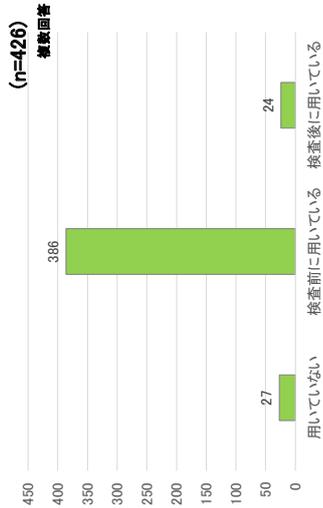


図27 (2023年)
(n=426)

職務中の血液曝露事故が受検動機の受検者はいましたか？

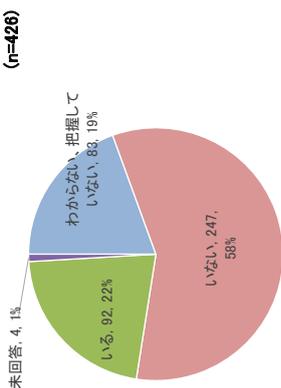


図28 (2023年)
(n=92)

職務中の血液曝露事故が受検動機の受検者はいましたか？(職種)

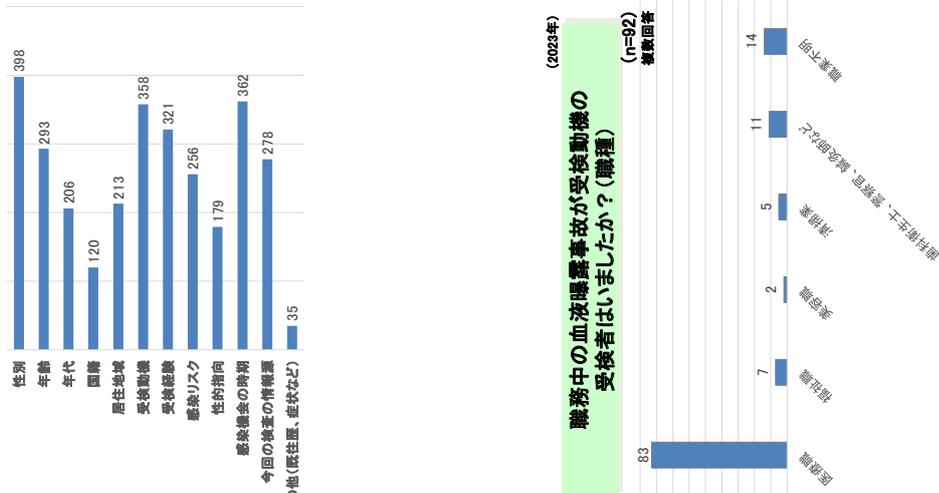


図29 (2023年)
(n=426)

中学生・高校生の検査希望者への対応は？

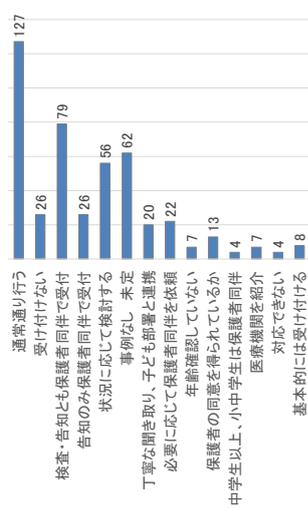
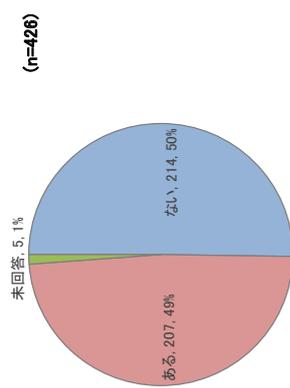


図30 (2023年)
(n=426)

日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？



R5年度保健所アンケート(HIV)

図31 (2023年) **日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みがありますか？** (n=207) 複数回答

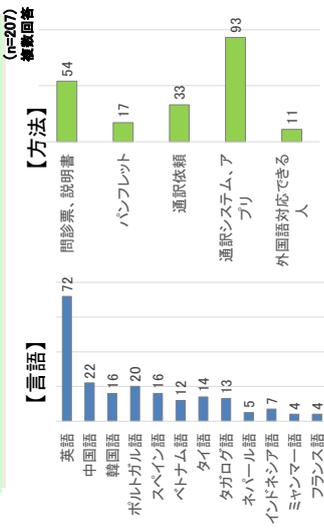


図32 (2023年) **他所でのスクリーニング検査結果、郵送検査の結果を持参した受検者はいましたか？** (n=426)

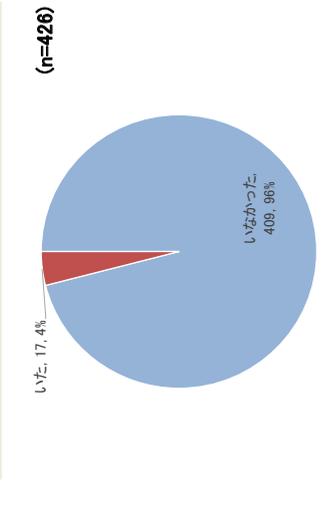


図33 (2023年) **受検者が採血に起因する体調不良等で医療機関受診が必要となった事例がありますか？** (n=426)

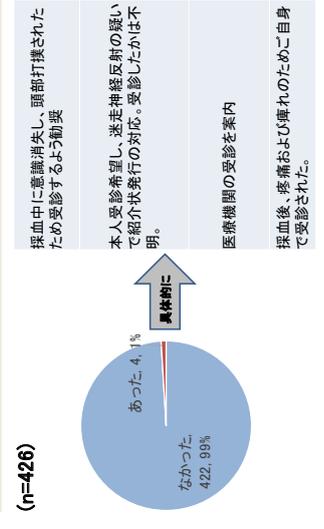


図34 (2023年) **受検者からPrEP(曝露前予防)についての質問はありましたか？** (n=426)

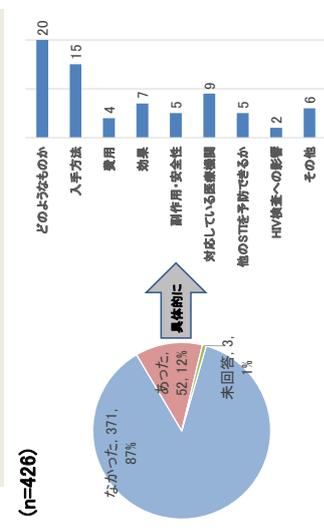


図35 (2023年) **保健所HIV検査 — 即日検査と通常検査 —** (n=426)

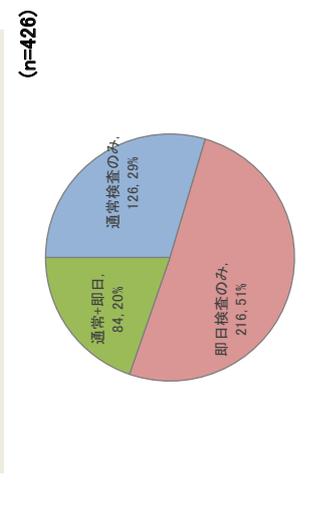


図36 (2023年) **保健所HIV検査 — 平日、夜間、土曜・日曜 —** (n=426)

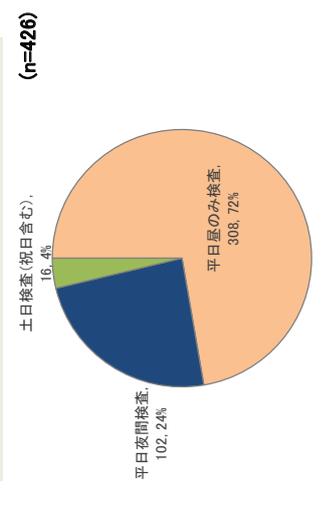


図37 (2023年) 各種HIV検査の実施状況 (保健所数の割合)

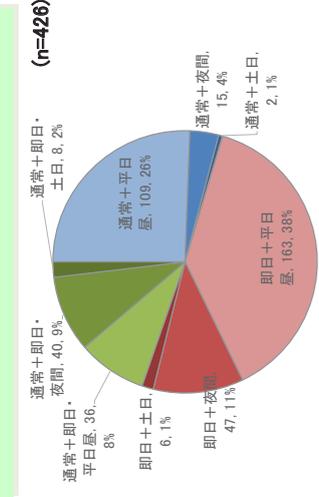


図38 (2023年) 各種HIV検査の受検者数

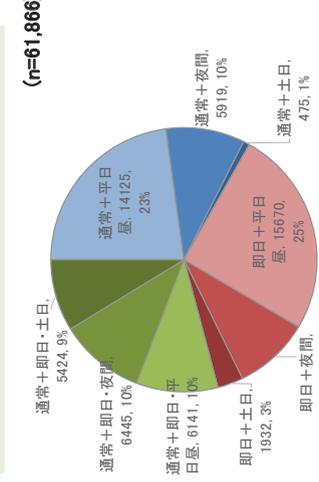


図39 (2023年) 各種HIV検査の陽性者数

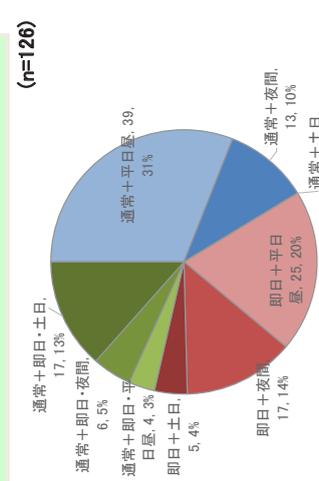


図40 (2023年) 各種HIV検査の実施状況

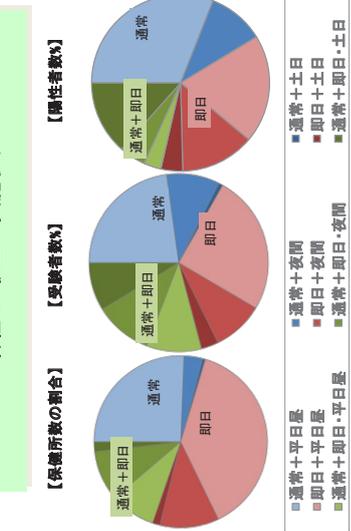


図41 (2023年) 実施曜日と時間帯

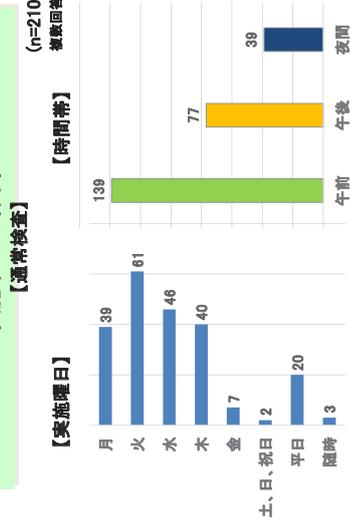
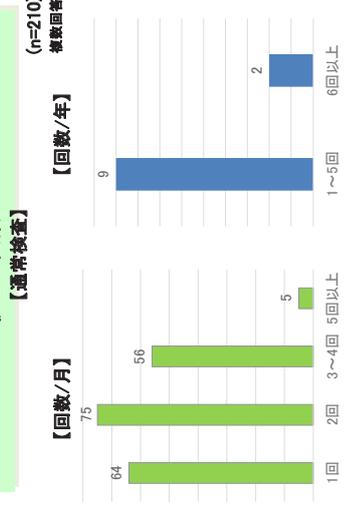


図42 (2023年) 検査の回数は?



R5年度保健所アンケート(HIV)

図43 (2023年)

検査は予約制ですか？
【通常検査】
(n=210)
複数回答

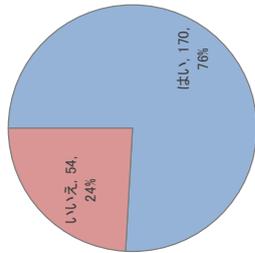


図44 (2023年)

結果返却のタイミングは？
【通常検査】
(n=210)

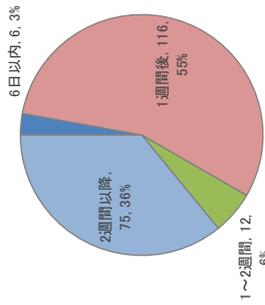


図45 (2023年)

【スクリーニング検査の実施施設は？】
【通常検査】
(n=210)

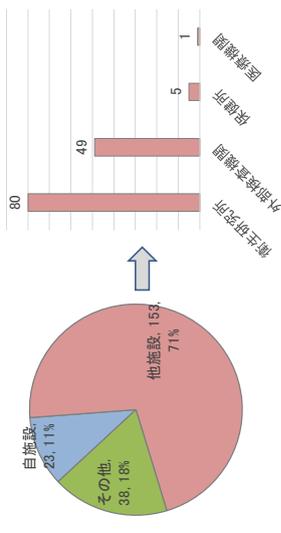


図46 (2023年)

【スクリーニング検査の方法は？】
【通常検査】
(n=210)
複数回答

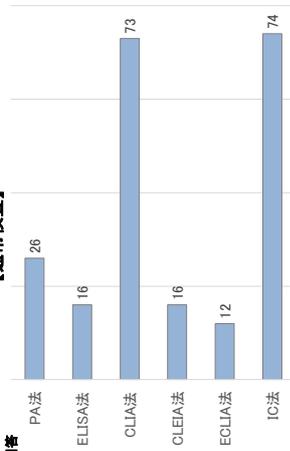


図47 (2023年)

確認検査の方法は？
【通常検査】
(n=210)

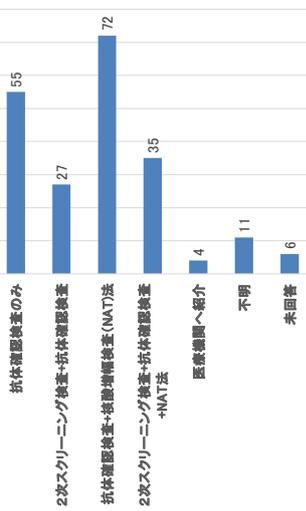
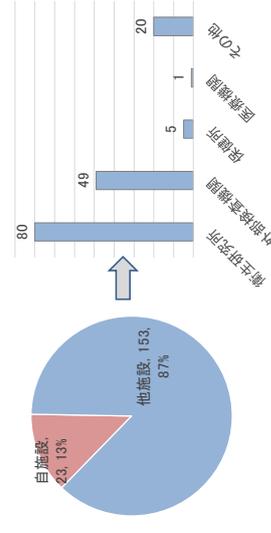
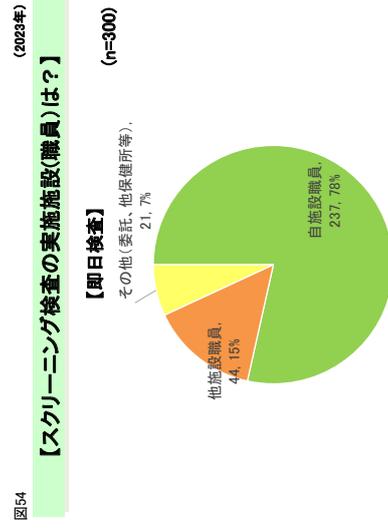
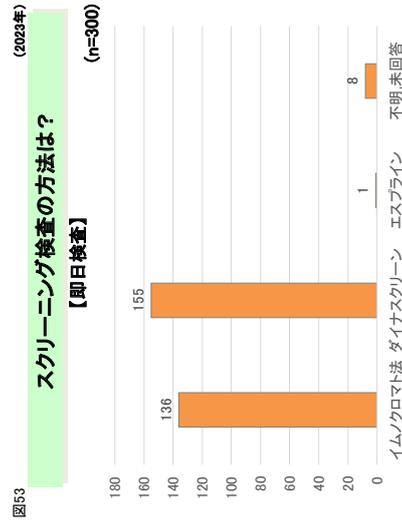
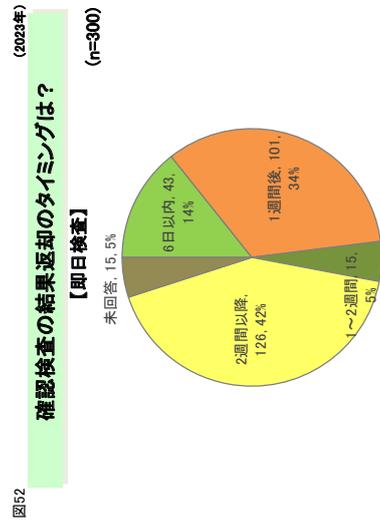
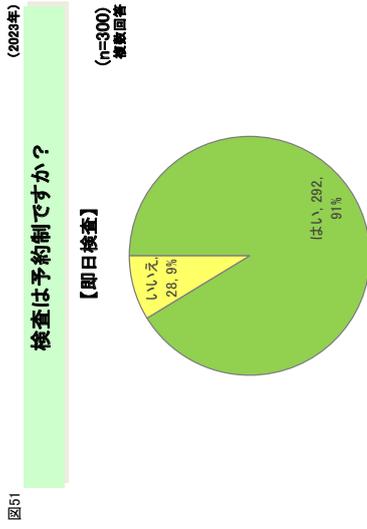
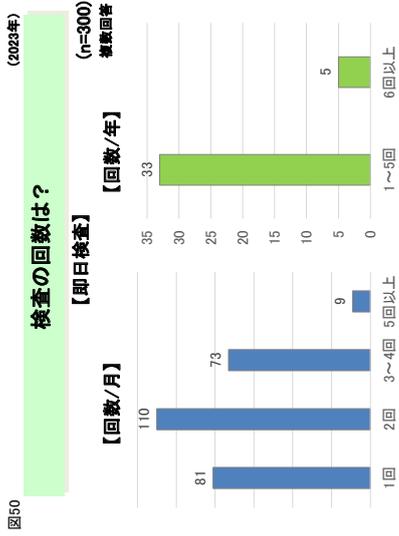
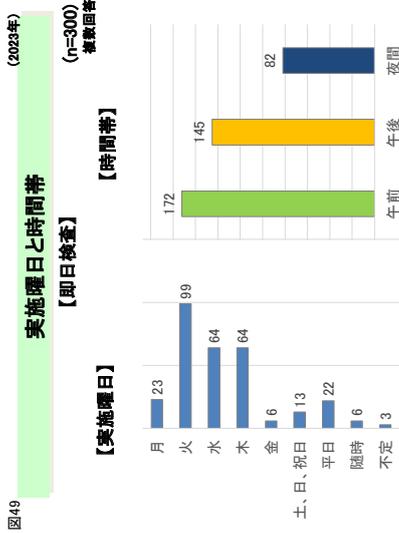
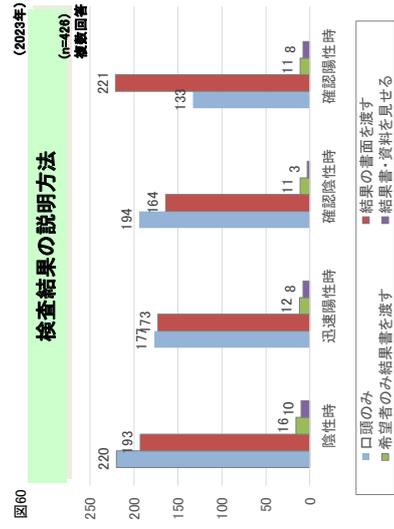
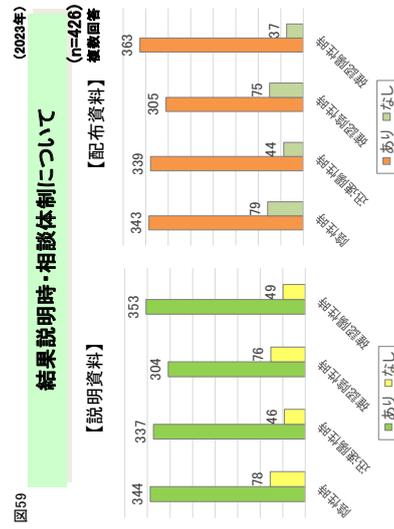
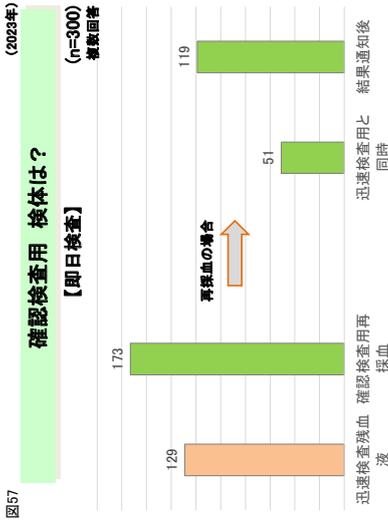
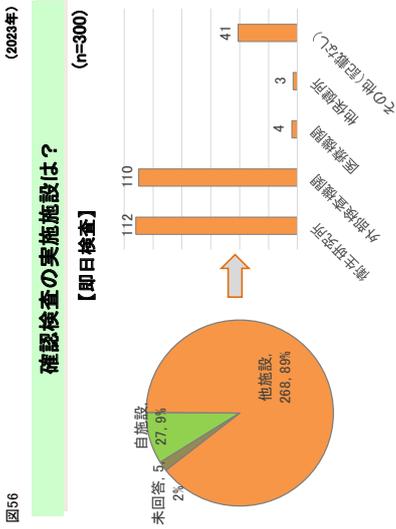
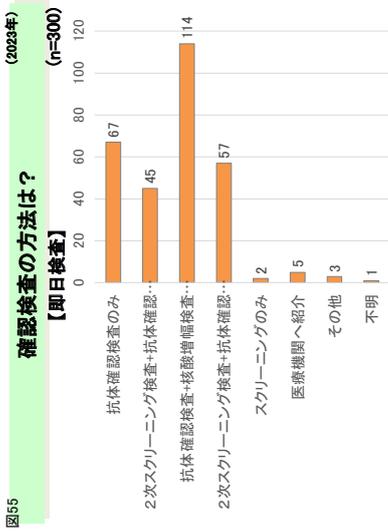


図48 (2023年)

確認検査の実施施設は？
【通常検査】
(n=210)







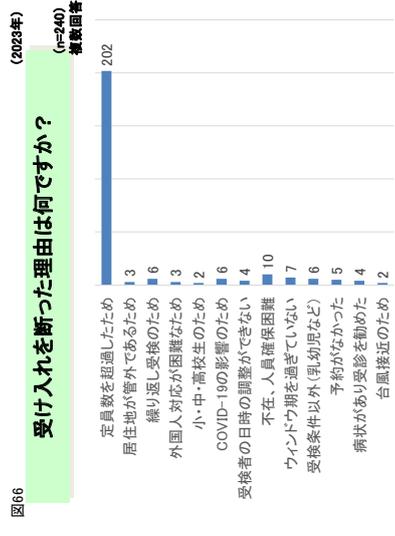
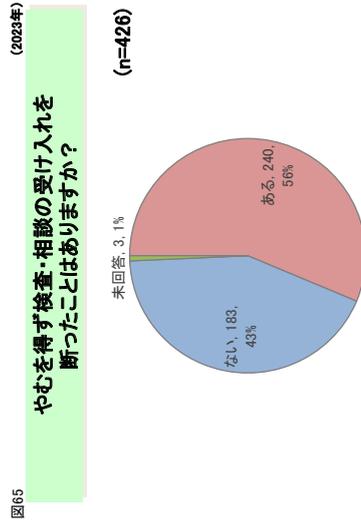
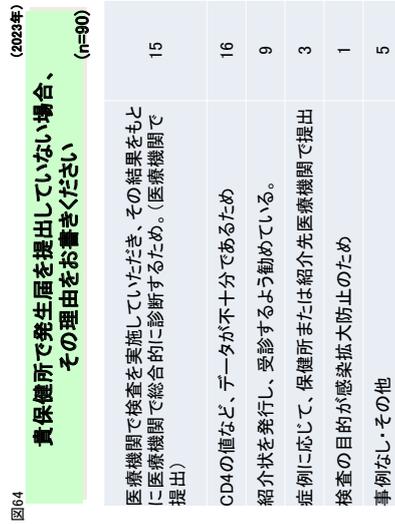
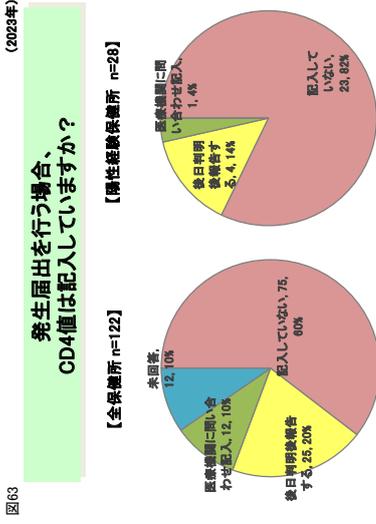
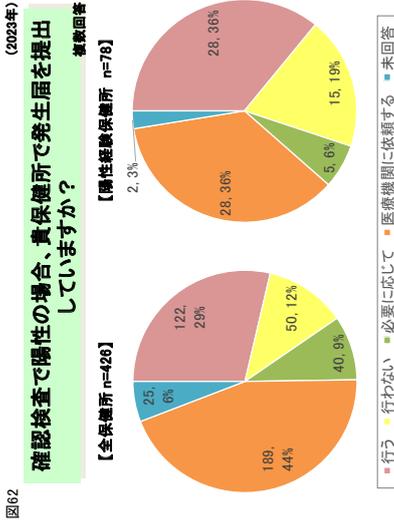
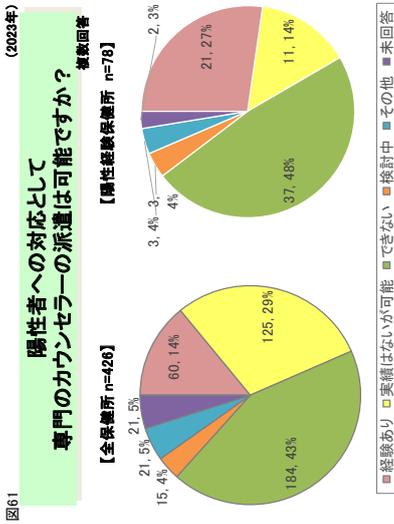


図67 (2023年)

担当者の研修・機会をどのように確保していますか？

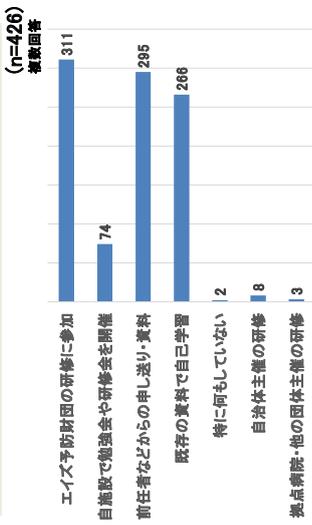


図68 (2023年)

検査・相談の後に担当者同士での情報共有や振り返りの機会はありますか？

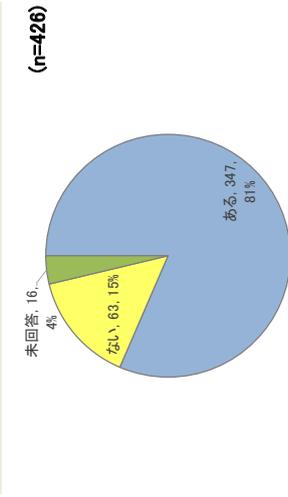


図69 (2023年)

保健所が郵送検査に関わる場合、どのような条件が整うのが望ましいと考えますか？



図70 (2023年)

保健所が郵送検査に関わる条件が整った場合、どのように活用したいですか？

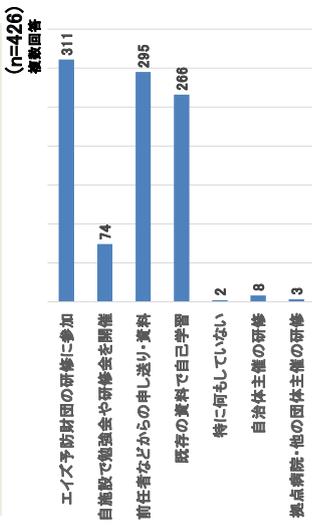


図71 (2023年)

MSMやHIV陽性の当事者などのコミュニティ、NGO、NPOとの連携について教えてください

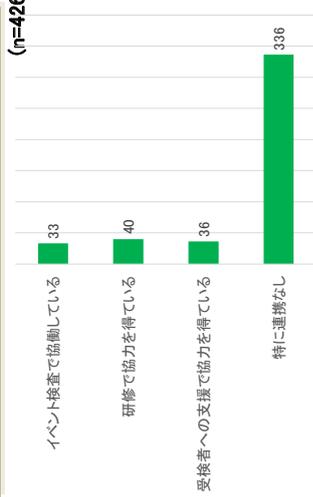
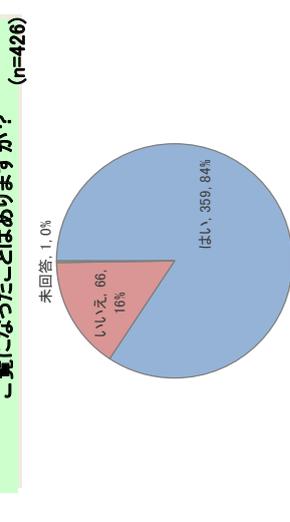


図72 (2023年)

研究班から発行されている「保健所等におけるHIV即日検査のガイドライン」をご覧になったことはありますか？



R5年度保健所アンケート(HIV)

図73 (2023年)
ウェブサイト「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？
(n=426)

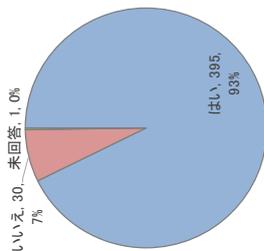
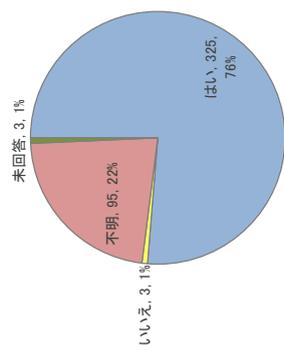
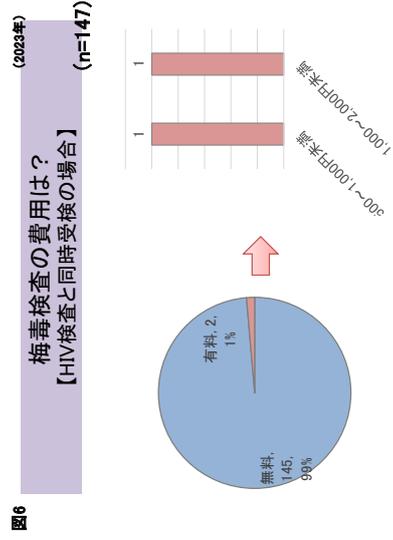
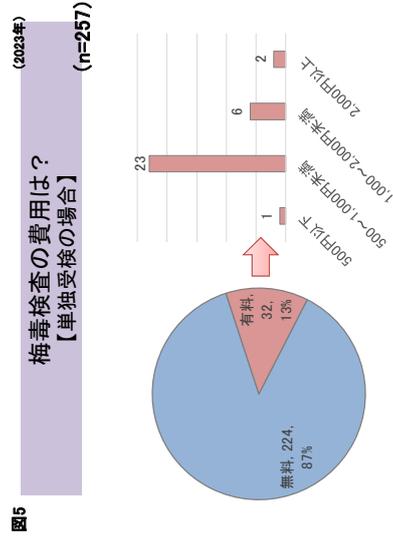
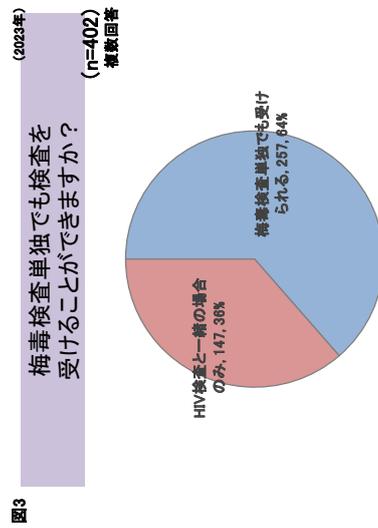
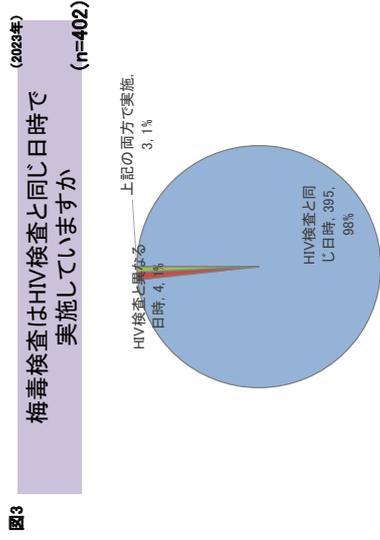
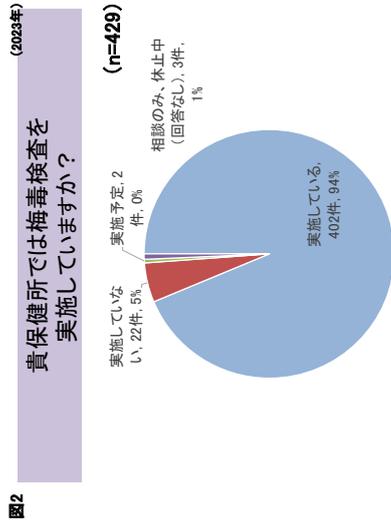


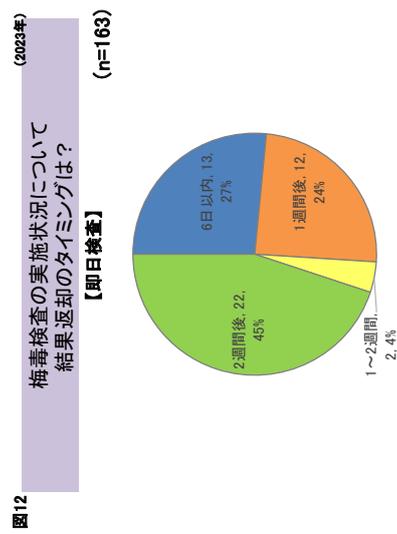
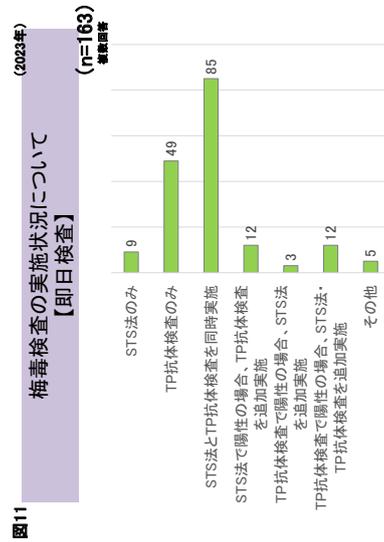
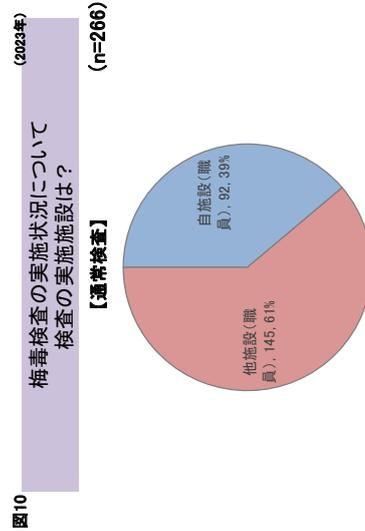
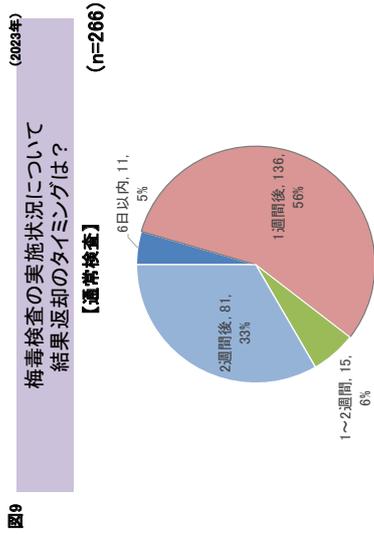
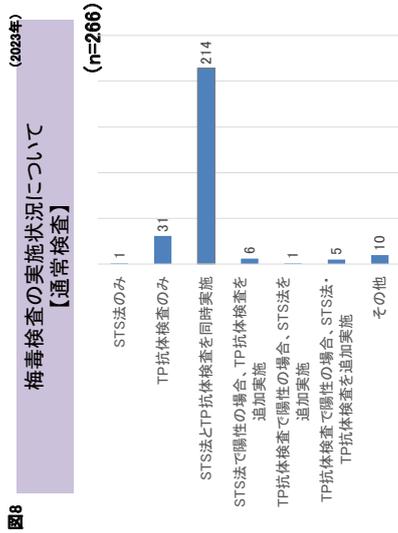
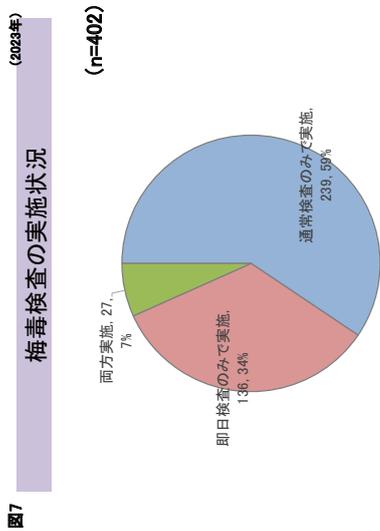
図74 (2023年)
「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？
(n=426)



R5年度保健所アンケート(梅毒)



R5年度保健所アンケート(梅毒)



R5年度保健所アンケート(梅毒)

図13 (2024年) 梅毒検査の実施状況について 検査の実施施設は？ (n=163) 【即日検査】

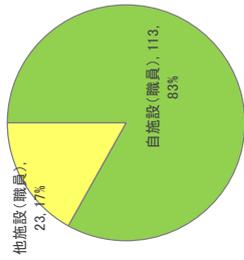


図14 (2024年) 1年間(2023年1~12月)の 検査数・陽性数

検査数	陽性数		陽性率
	梅毒陽性数	うちSTS法陽性数	
56,845	2,066	907	3.6%
44,064	907	2,195	2.1%
51,084	2,195	4.3%	4.3%

図15 (2024年) 梅毒検査 検査数と陽性数

	R5	R4	R3	R2	R1	H29	前年比
検査実施保健所数	402	318	182	273	455	393	126.4%
梅毒検査数(全体)	56,845	26,603	15,902	27,462	79,147	59,104	213.7%
梅毒検査のうちSTS法検査数	44,064	21,557	13,174	19,925	60,890	47,968	204.4%
梅毒検査のうちTP抗体検査数	51,084	25,321	13,901	24,498	70,708	45,108	201.7%
梅毒検査のうちSTS法陽性数	2,066	1,100	599	772	1,637	1,151	187.6%
梅毒検査のうちTP抗体検査陽性数	907	513	264	316	876	639	176.6%
梅毒検査のうちSTS法陽性率	2,195	1,214	645	785	1,953	1,211	180.8%
梅毒検査のうちSTS法陽性率	3.6%	4.1%	3.8%	2.8%	2.1%	1.9%	87.9%
梅毒検査のうちTP抗体検査陽性率	2.1%	2.4%	2.0%	1.6%	1.4%	1.3%	88.5%
梅毒検査のうちTP抗体検査陽性率	4.3%	4.6%	4.6%	3.2%	2.8%	2.7%	89.6%

図14

図16 (2024年) 梅毒検査が陽性だった場合の対応は？ (n=402) 複数回答

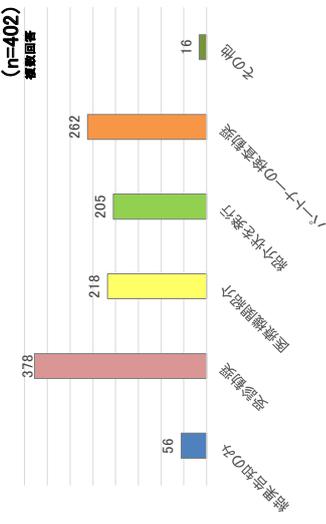


図17 (2024年) 梅毒検査陰性の証明書を発行していますか？ (n=402)

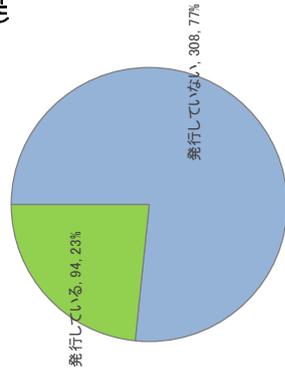


図18 (2024年) 梅毒検査陰性の証明書発行の料金は 有料ですか？無料ですか？ (n=402)

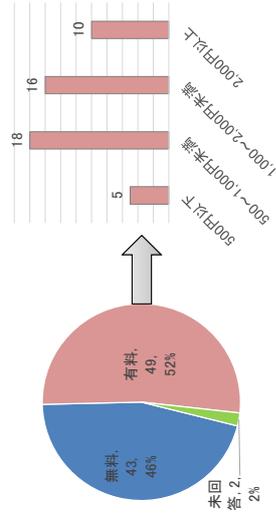


図18

R5年度保健所アンケート(梅毒)

図19 (2023年) (n=94)
 証明書の発行は記名式ですか？

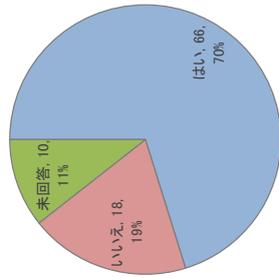


図20 (2023年) (n=402)
 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

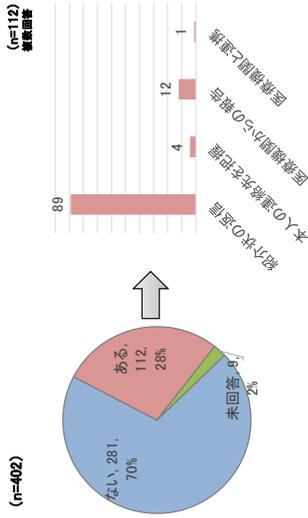


図21 (2023年) (n=402)
 梅毒検査の受検者への説明・配布用の資料はありますか？

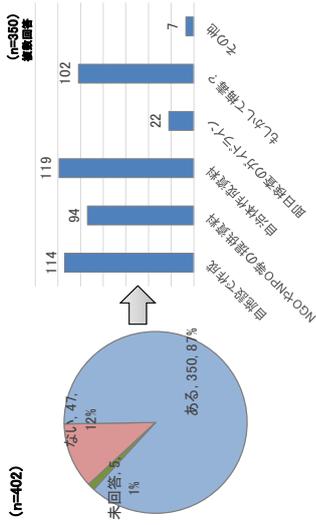


図22 (2023年) (n=402)
 梅毒の説明・配布用資料について、研究班からの資料提供を希望されますか？

